

令和3年度
県民アンケート調査
報告書

<概要版>

令和3年12月

奈良県

—目次—

第1章 調査の実施概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の設計	1
4. 調査票の配布・回収の状況	1
第2章 調査結果の分析	3
1. 県民の生活全般について	3
1-1 現在の暮らし向きの実感	3
1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感	4
1-3 1年前と比較して暮らし向きの実感が変化した理由	5
1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無	7
1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容	8
1-6 奈良県の住みやすさの評価	9
1-7 将来の奈良県での定住意向	10
1-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由	11
2. 県民の生活に関する重要度・満足度について	13
3. 新型コロナウイルス感染症の影響	21
4～7. 県民の生活に関する意識やニーズについて	22
4. 栄える「都」をつくる(産業)	22
5. 栄える「都」をつくる(雇用)	24
6. 健やかな「都」をつくる(医療・福祉)	26
7. 健やかな「都」をつくる(スポーツ振興)	29
8. 回答者に関すること	32

第1章 調査の実施概要

1. 調査の目的

身近な生活に関する事柄についての重要度・満足度のほか、「医療・福祉」や「スポーツ振興」等に関する意識やニーズを把握し、今後の県政運営の基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

2. 調査項目

県民の生活全般に関する項目、県民にとって身近な生活に関する項目についての重要度と満足度を5段階で問う項目、「医療・福祉」や「スポーツ振興」等に関する意識やニーズ及び回答者の属性を問うフェイスシートから構成されています。

3. 調査の設計

◇調査地域	奈良県全域	◇調査対象	県内在住の満20歳以上の男女・個人
◇調査標本数	5,000人	◇調査抽出法	層化二段無作為抽出法
◇調査方法	郵送配布・郵送回収	◇調査時期	令和3年5月22日(土)～6月10日(木)

4. 調査票の配布・回収の状況

◇配布件数	5,000件	◇有効回答数(率)	2,712件(54.2%)
-------	--------	-----------	---------------

■ライフステージの区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
若者	20～29歳で、「夫婦のみの世帯」以外の世帯(うち「未婚」または「離婚・死別」で、子どもがいない世帯)の回答者	144	5.3%
独身	30～64歳で、「夫婦のみの世帯」以外の世帯(「うち未婚」または「離婚・死別」で、子どもがいない世帯)の回答者	364	13.4%
夫婦	20～64歳で、「夫婦のみの世帯」(うち子どもがいない世帯)の回答者	229	8.4%
育児期	小学校入学前の子どもがいる世帯の回答者	173	6.4%
教育期前期	小・中学生、高校生、高専生の子どもがいる世帯の回答者	445	16.4%
教育期後期	専門学校生・短大生・予備校生・大学生(院生)の子どもがいる世帯の回答者	214	7.9%
単身高齢者	65歳以上の単身世帯の回答者	133	4.9%
高齢者夫婦	65歳以上の夫婦のみの世帯の回答者	497	18.3%
非該当又は無回答		688	25.4%
合計※注		2,887	-
有効回答数		2,712	100.0%

(注) ライフステージ区分は、「年齢」、「世帯構成」、「子どもの成長段階」の複数の要素を組み合わせて設定している。2人以上の子どもがいる場合、複数の区分に該当するため、合計は有効回答数(2,712件)と一致しない。

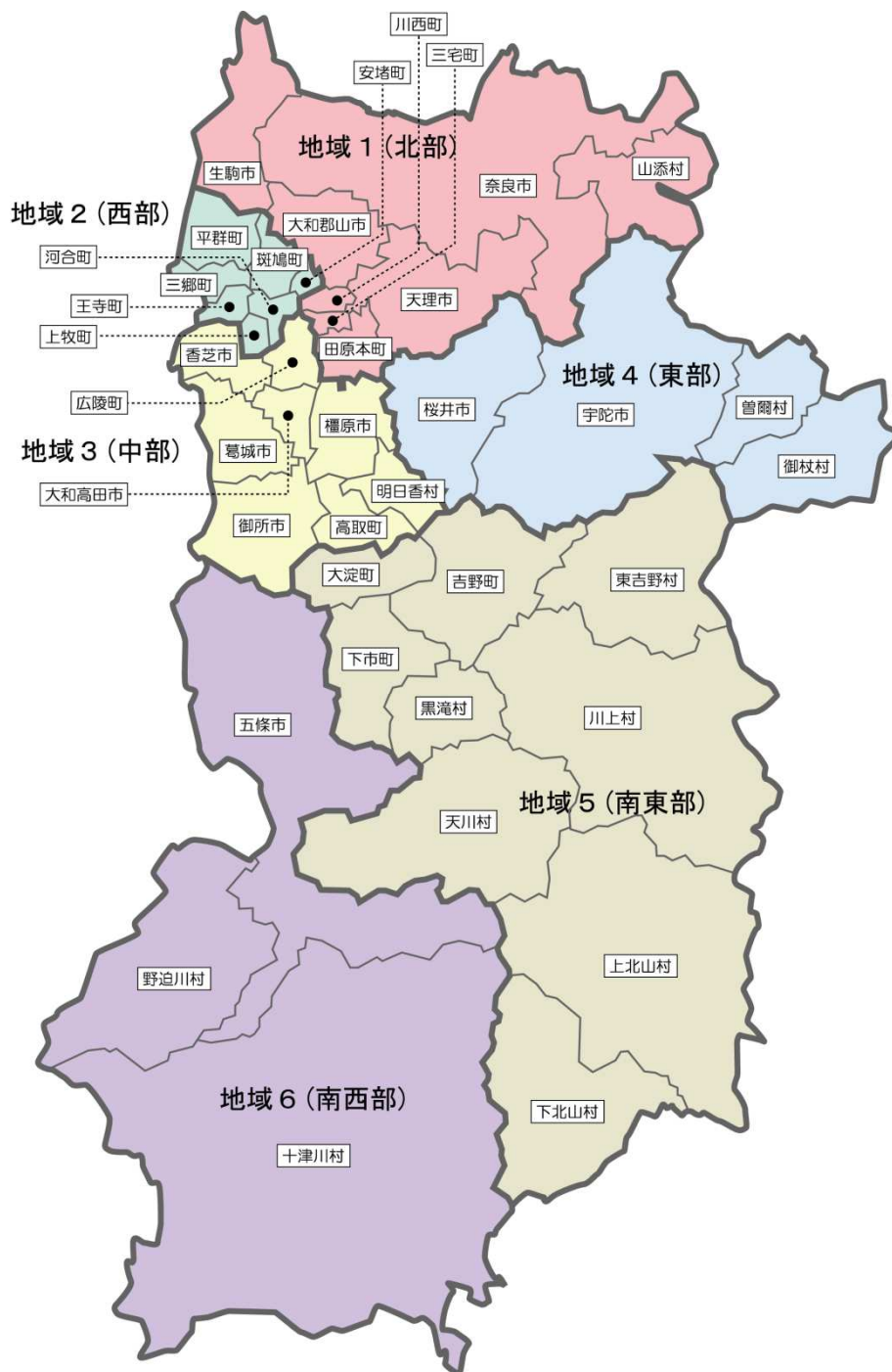
■旧住民・新住民の区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
旧住民(奈良県にずっと住んでいる人)	生まれたときから奈良県に住んでいる回答者	1,507	55.6%
新住民(奈良県に新しくきた人)	生まれたときは奈良県に住んでおらず、移住してきた回答者	1,187	43.8%
無回答		18	0.7%
合計		2,712	100.0%

■奈良での就労区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
奈良県内で働いている人	就労場所が奈良県内の回答者	1,212	44.7%
奈良県外で働いている人	就労場所が奈良県外の回答者	422	15.6%
非該当又は無回答		1,078	39.7%
合計		2,712	100.0%

地域の区分



区分名	該当市町村名	有効回答数	構成比
地域1(北部)	奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市・山添村・川西町・三宅町・田原本町	1,272	46.9%
地域2(西部)	平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町	279	10.3%
地域3(中部)	大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高取町・明日香村・広陵町	680	25.1%
地域4(東部)	桜井市・宇陀市・曾爾村・御杖村	196	7.2%
地域5(南東部)	吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村	191	7.0%
地域6(南西部)	五條市・野迫川村・十津川村	94	3.5%
	合計	2,712	100.0%

第2章 調査結果の分析

1. 県民の生活全般について

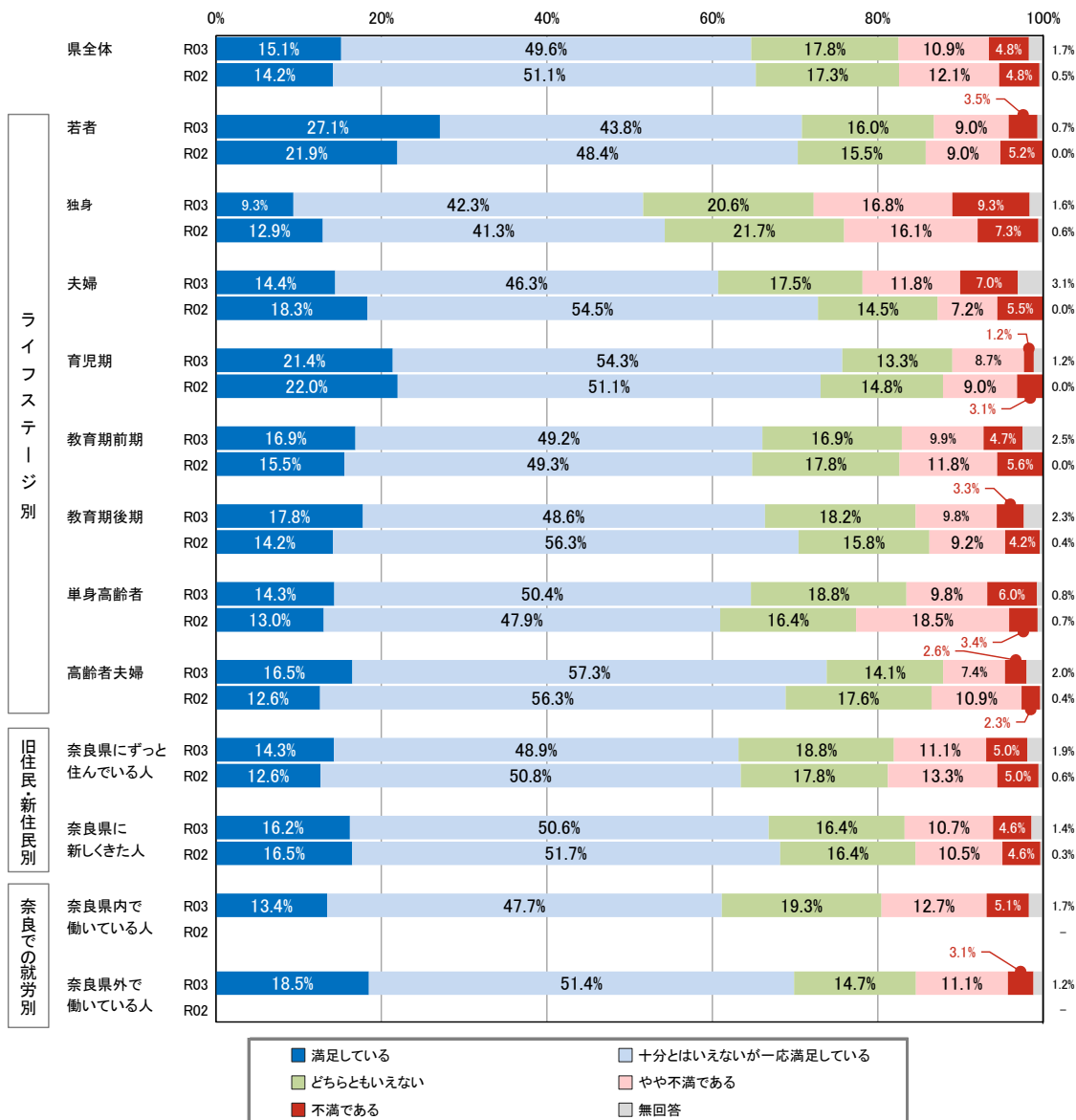
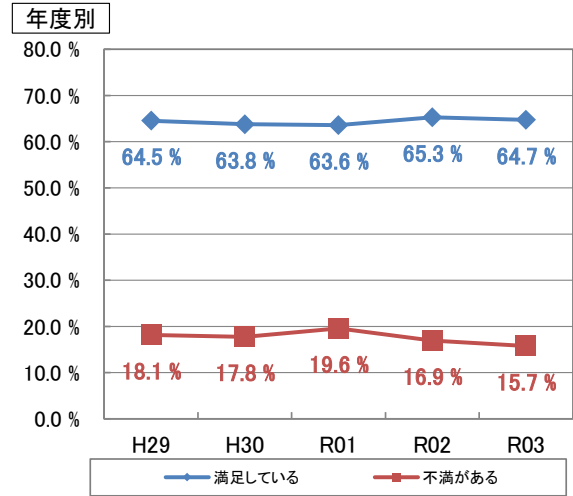
1-1 現在の暮らし向きの実感（問1）

■「満足」（「満足している」+「十分とはいえないが一応満足している」）している人は64.7%で、令和2年度と比較すると、0.5ポイント減少しています。「不満」（「やや不満である」+「不満である」）を抱えている人は15.7%で、令和2年度と比較すると、こちらも1.2ポイント減少しています。

■ライフステージ別にみると、「満足」している人が最も多いのは『育児期』（75.7%）となっています。一方、「不満」を抱えている人が最も多いのは『独身』（26.1%）となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「満足」している人は、『奈良県に新しくきた人』（66.8%）が『奈良県にずっと住んでいる人』（63.2%）と比べ多くなっています。

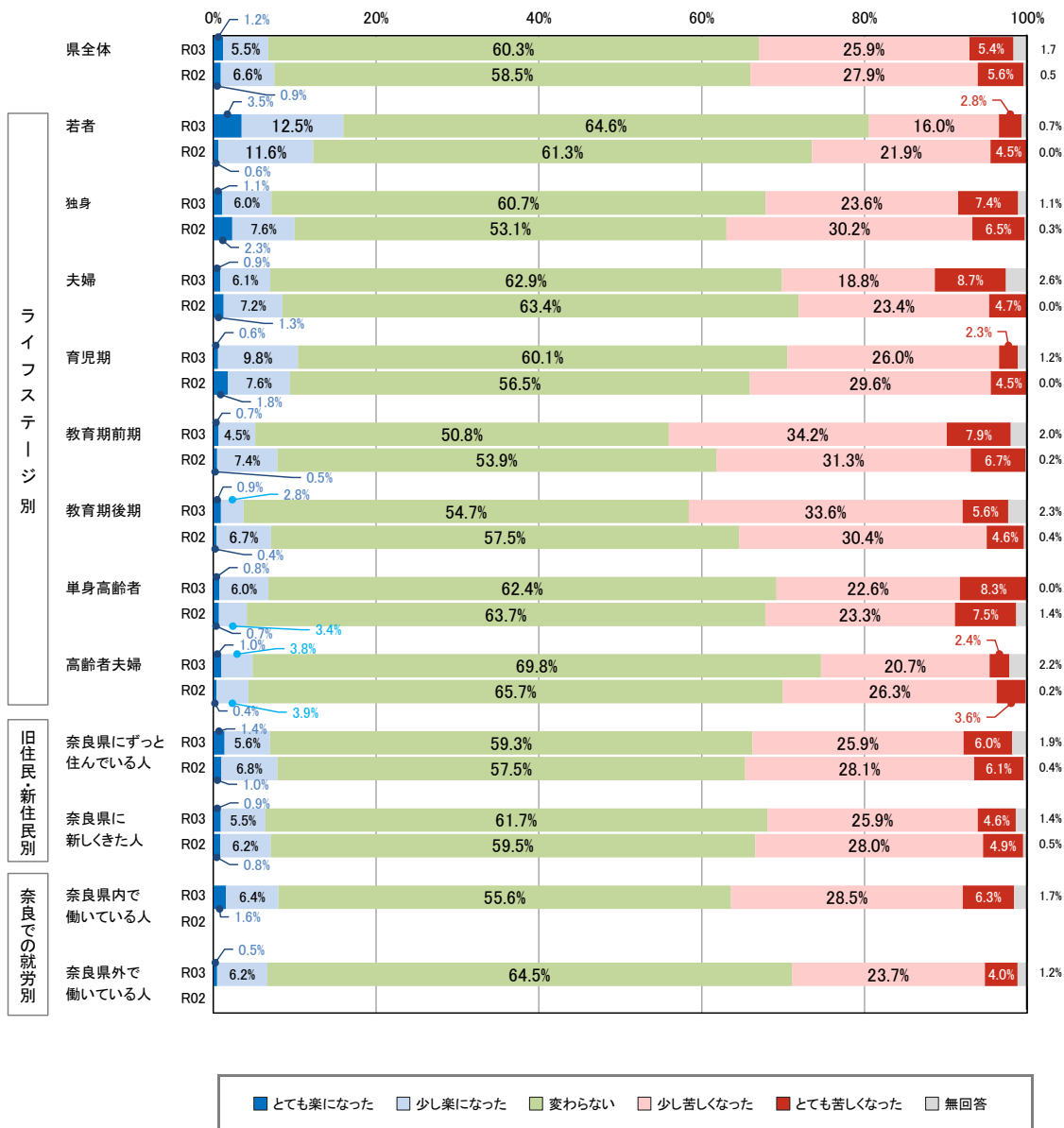
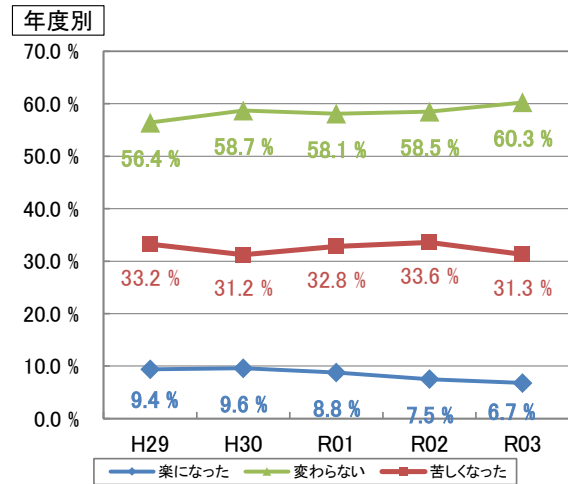
■奈良での就労別にみると、「満足」している人は、『奈良県外で働いている人』（69.9%）が『奈良県内で働いている人』（61.1%）と比べ多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感（問2）

- 「変わらない」と感じている人は 60.3%で、令和2年度から 1.8 ポイント増加しています。「楽になった」（「とても楽になった」+「少し楽になった」）と感じている人（6.7%）は、0.8 ポイント減少、また、「苦しくなった」（「少し苦しくなった」+「とても苦しくなった」）と感じている人（31.3%）も、2.3 ポイント減少しています。
- ライフステージ別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『教育期前期』（42.0%）が最も多く、次いで『教育期後期』（39.3%）となっています。
- 旧住民・新住民別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』（31.9%）が『奈良県に新しくきた人』（30.5%）と比べ多くなっています。
- 奈良での就労別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県内で働いている人』（34.7%）が『奈良県外で働いている人』（27.7%）と比べ多くなっています。

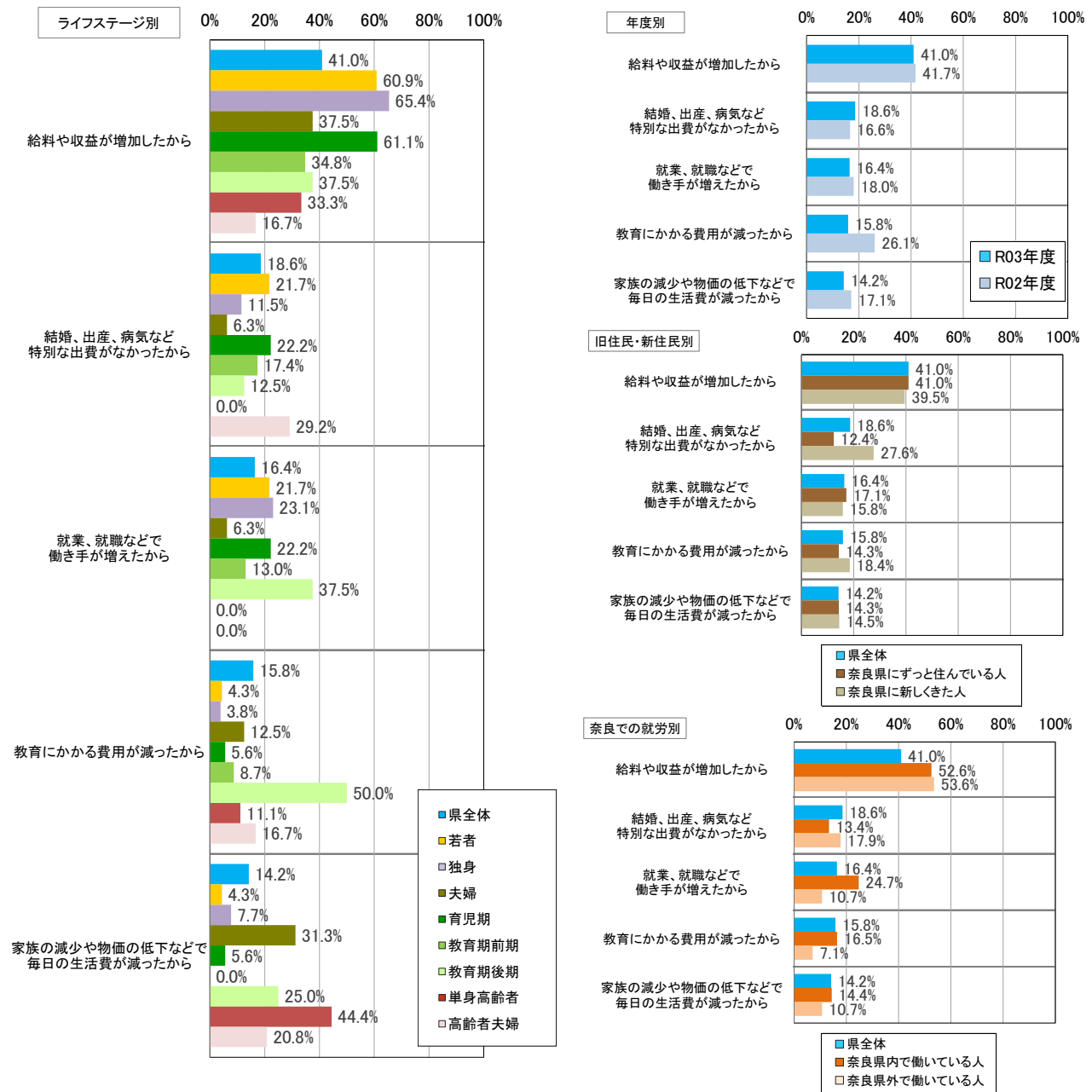


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

1-3 1年前と比較して暮らし向きの実感が変化した理由

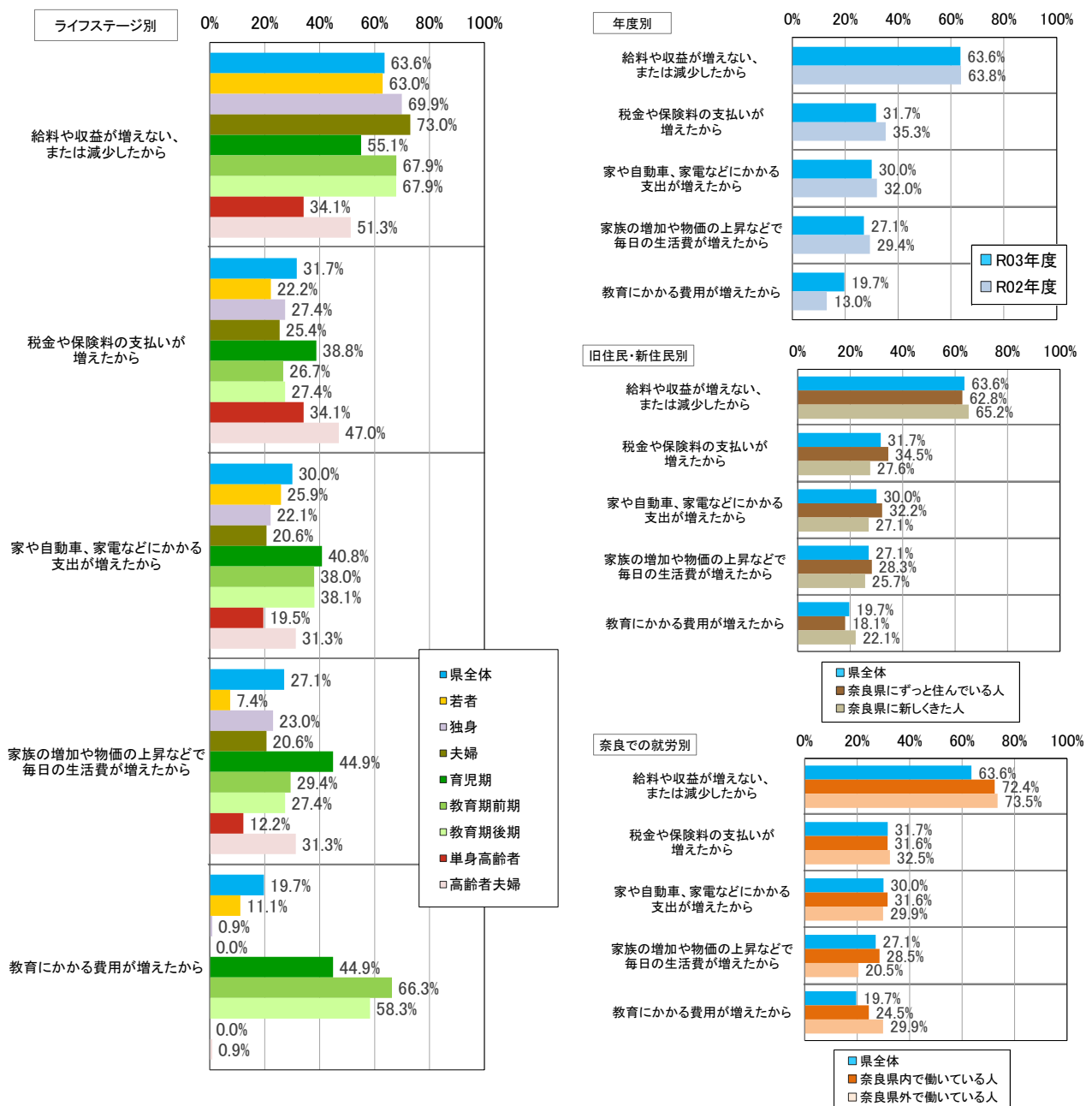
(1) 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由（問3 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

- 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増加したから」(41.0%)が最も多く、次いで「結婚、出産、病気など特別な出費がなかったから」(18.6%)、「就業、就職などで働き手が増えたから」(16.4%)、「教育にかかる費用が減ったから」(15.8%)、「家族の減少や物価の低下などで毎日の生活費が減ったから」(14.2%)が多くなっています。
- 「給料や収益が増加したから」と答えた人については、ライフステージ別では『独身』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「結婚、出産、病気など特別な出費がなかったから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「就業、就職などで働き手が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「教育にかかる費用が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の減少や物価の低下などで毎日の生活費が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』と『奈良県に新しくきた人』が同程度、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



(2) 1年前と比較して暮らし向きの実感が「少し苦しくなった」または「とても苦しくなった」と答えた理由 (問4 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 1年前と比較して暮らし向きの実感が「少し苦しくなった」または「とても苦しくなった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増えない、または減少したから」(63.6%)が最も多く、次いで「税金や保険料の支払いが増えたから」(31.7%)、「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」(30.0%)、「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」(27.1%)、「教育にかかる費用が増えたから」(19.7%)が多くなっています。
- 「給料や収益が増えない、または減少したから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「税金や保険料の支払いが増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多く、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「教育にかかる費用が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期前期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しく来た人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



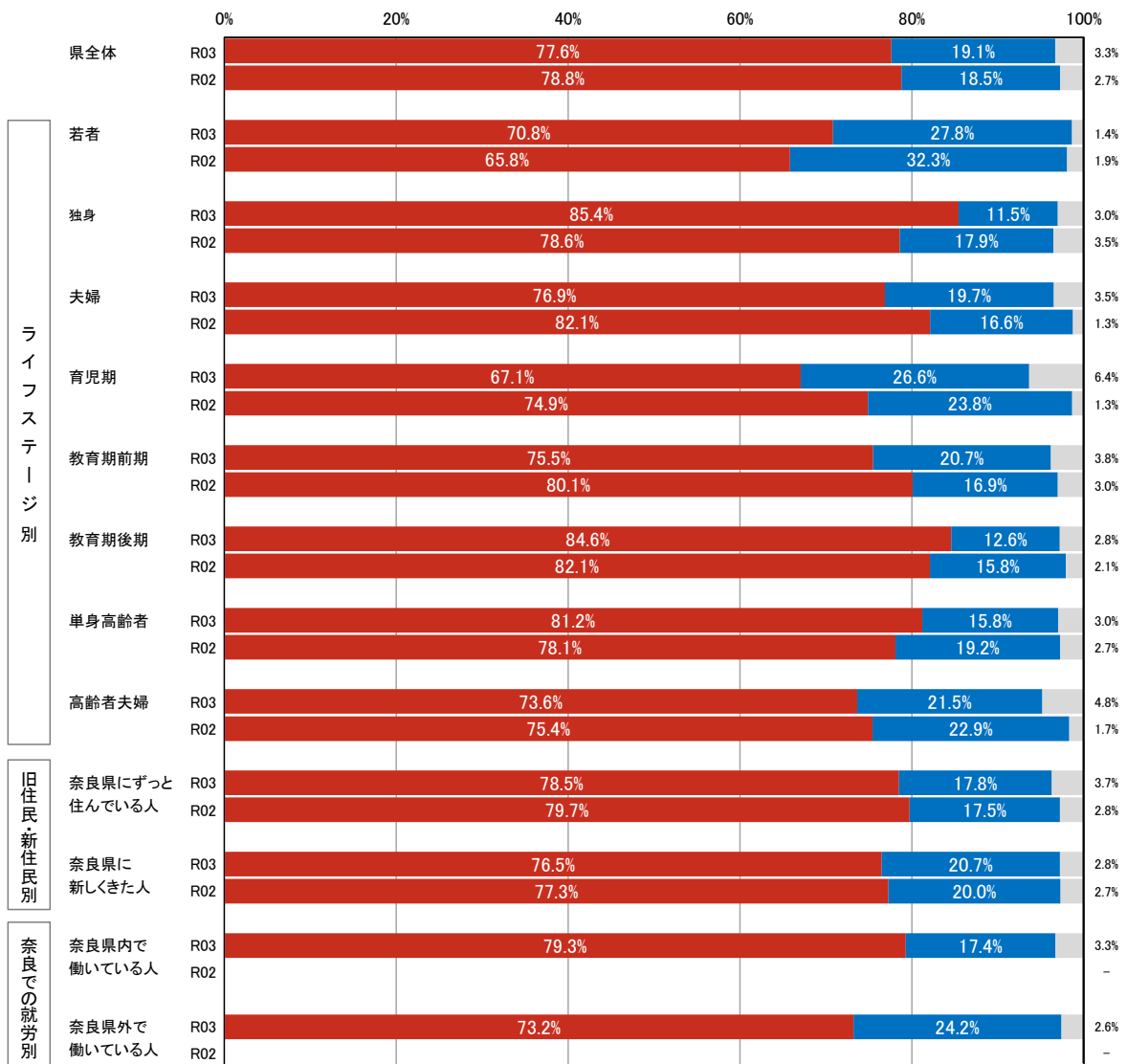
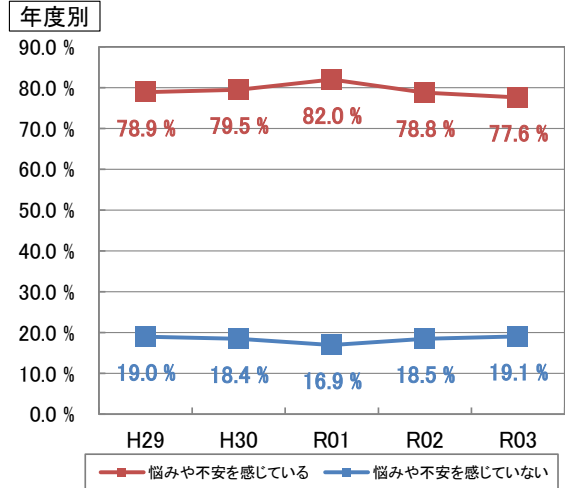
1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無（問5）

■日頃の生活での悩みや不安の有無を尋ねたところ、「悩みや不安を感じている」と答えた人は 77.6%となっています。「悩みや不安を感じている」と答えた人は、令和元年度から減少傾向で、令和2年度からは 1.2 ポイント減少しています。一方、「悩みや不安を感じていない人」は 0.6 ポイント増加して 19.1%となっています。

■ライフステージ別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『独身』(85.4%)、『教育期後期』(84.6%)、『単身高齢者』(81.2%)で8割以上となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(78.5%)が『奈良県に新しくきた人』(76.5%)と比べ多くなっています。

■奈良での就労別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県内で働いている人』(79.3%)が『奈良県外で働いている人』(73.2%)と比べ多くなっています。

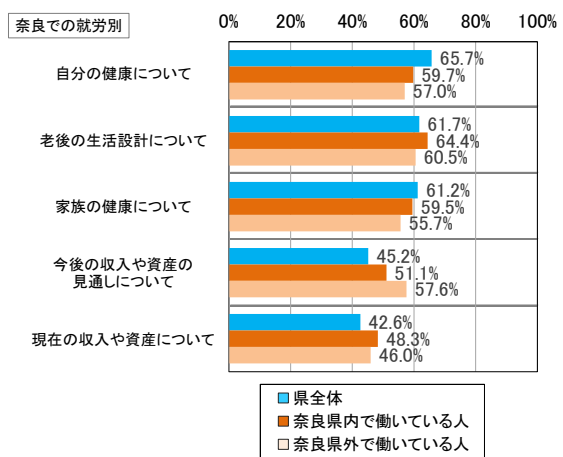
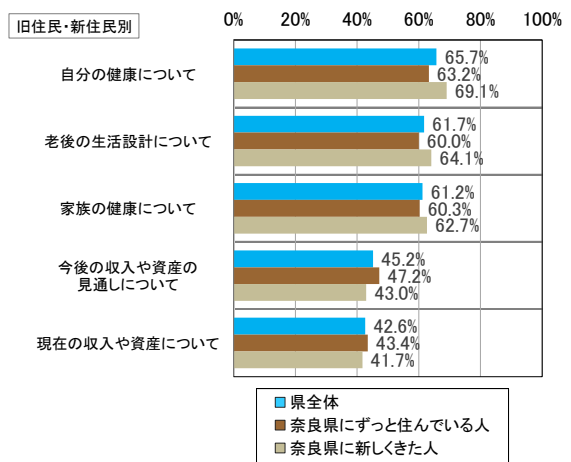
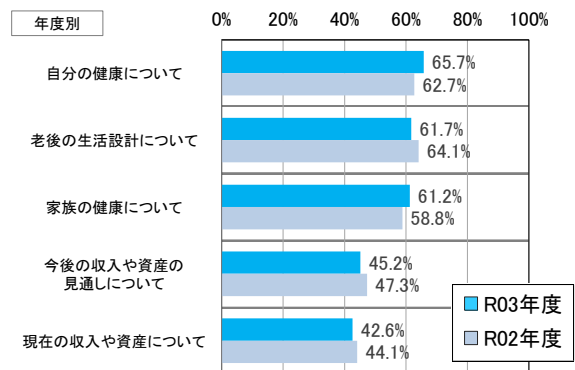
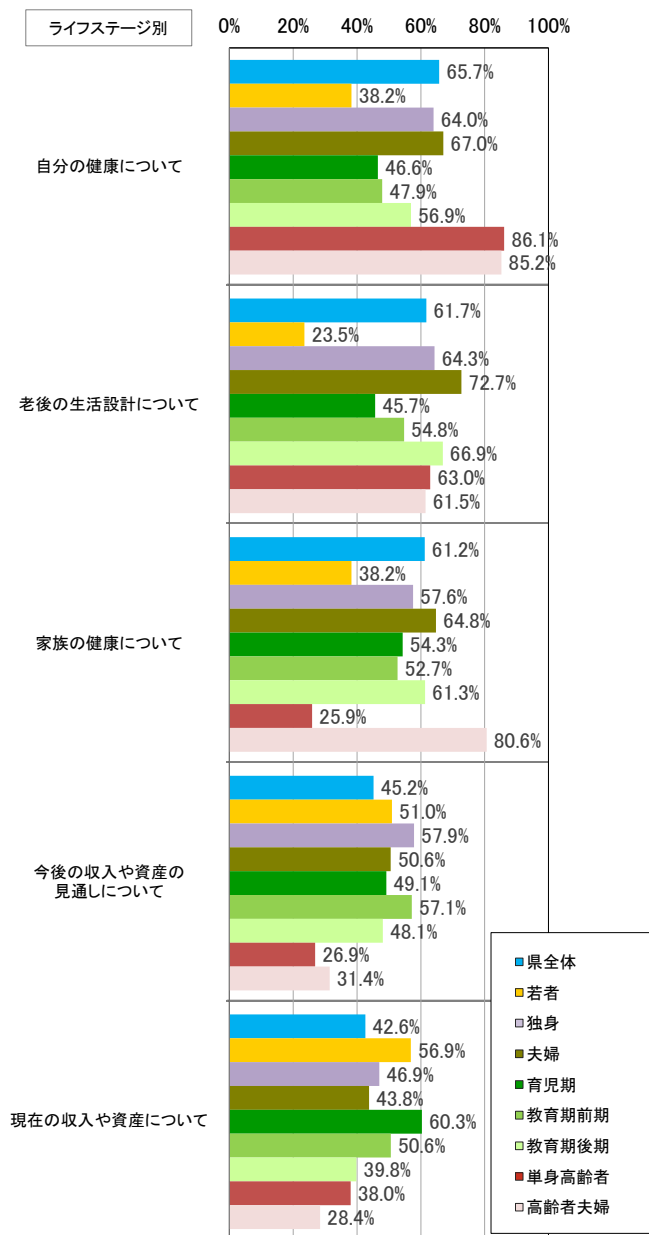


■悩みや不安を感じている ■悩みや不安を感じていない □無回答

※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

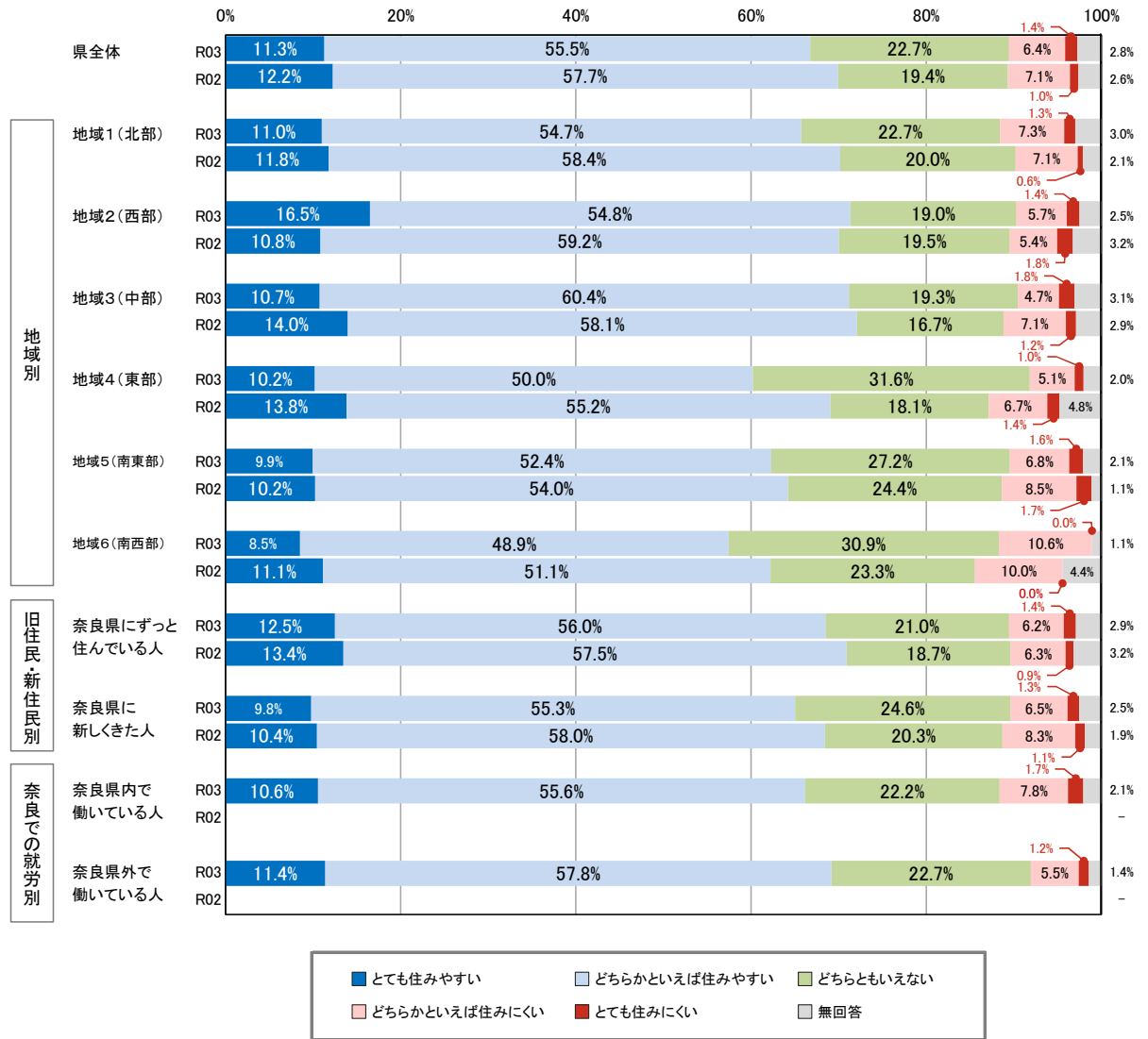
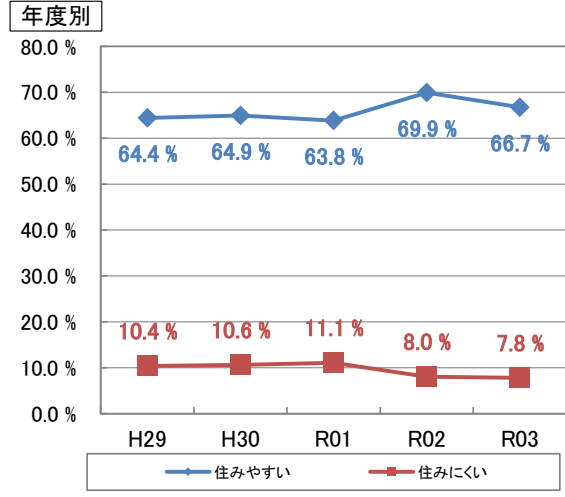
1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容 (問6 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 日頃の生活での悩みや不安の内容を尋ねたところ、「自分の健康について」(65.7%)が最も多く、次いで「老後の生活設計について」(61.7%)、「家族の健康について」(61.2%)、「今後の収入や資産の見通しについて」(45.2%)、「現在の収入や資産について」(42.6%)が多くなっています。
- 「自分の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しく来た人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「老後の生活設計について」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しく来た人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しく来た人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「今後の収入や資産の見通しについて」と答えた人については、ライフステージ別では『独身』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「現在の収入や資産について」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



1-6 奈良県の住みやすさの評価（問7）

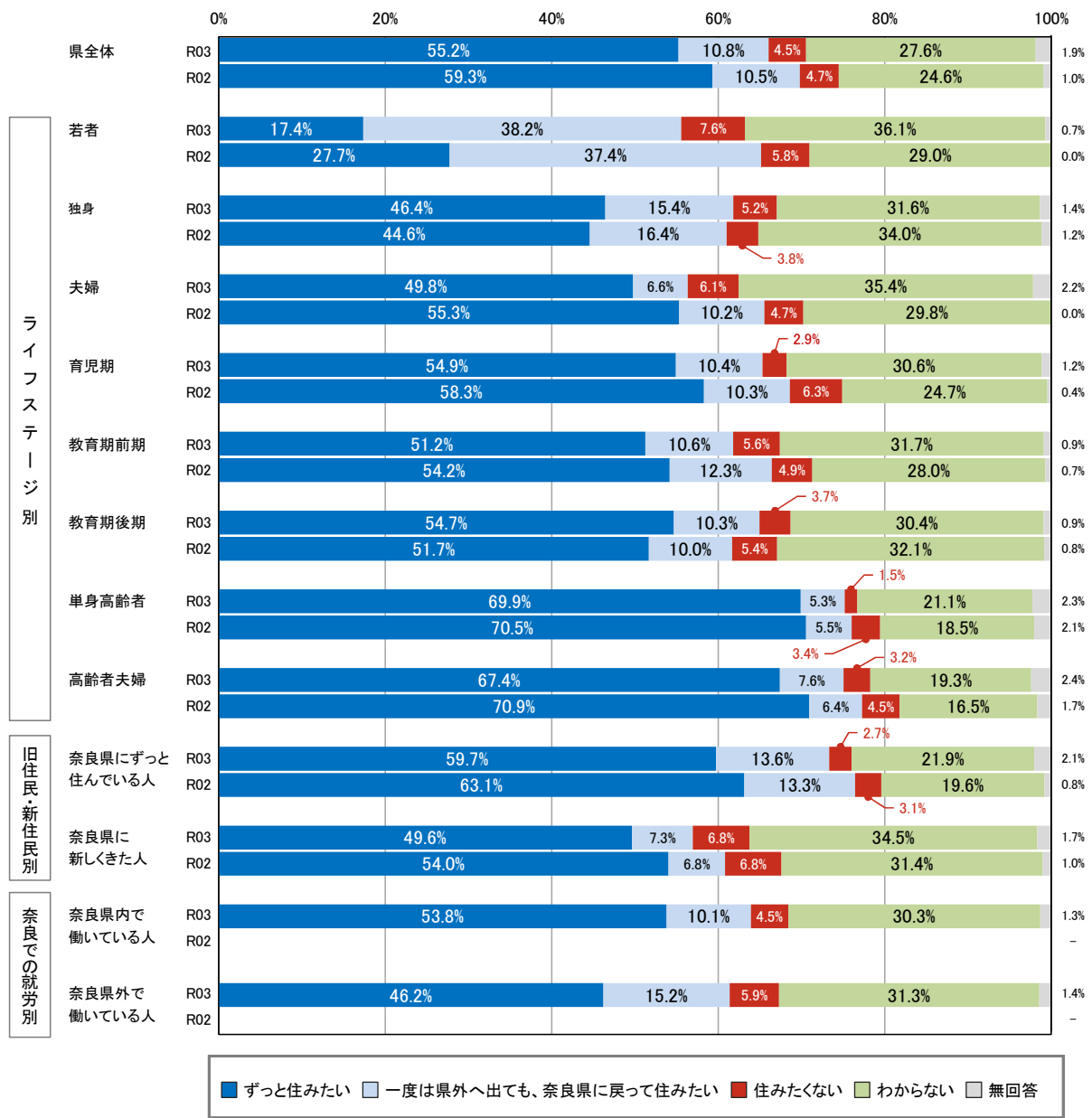
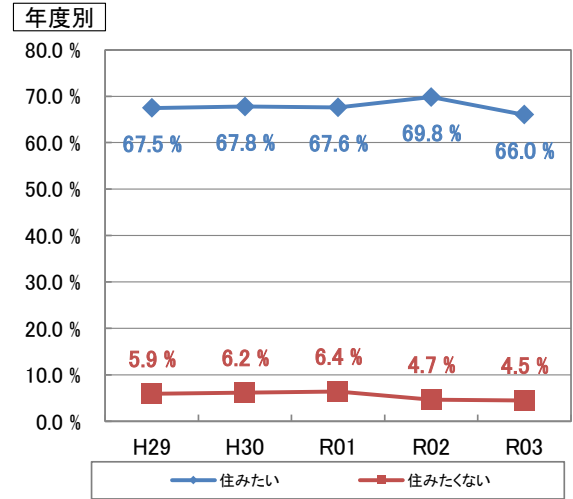
- 「住みやすい」（「とても住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」）と感じている人は66.7%で、令和2年度から3.2ポイント減少しています。「住みにくい」（「どちらかといえば住みにくい」+「とても住みにくい」）と感じている人は、令和2年度からほぼ横ばい（0.3ポイント減）となっています。
- 地域別でみると、「住みやすい」と感じている人は、『地域2（西部）』（71.3%）が最も多く、次いで『地域3（中部）』（71.2%）となっており、『地域6（南西部）』（57.4%）と最も少なくなっています。
- 旧住民・新住民別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』（68.5%）が『奈良県に新しくきた人』（65.0%）と比べ多くなっています。
- 奈良での就労別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県内で働いている人』（69.2%）が『奈良県外で働いている人』（66.2%）と比べ多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

1-7 将来の奈良県での定住意向 (問8)

- 奈良県に「住みたい」(「ずっと住みたい」+「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人は66.0%で、令和2年度と比較すると、3.8ポイント減少しており、ここ5年間で最も少なくなっています。
- ライフステージ別に見ると、奈良県に「ずっと住みたい」と考えている人が最も多いのは『単身高齢者』(69.9%)、最も少ないのは『若者』(17.4%)となっています。一方、「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人が最も多いのは『若者』(38.2%)となっています。
- 旧住民・新住民別に見ると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(73.3%)が『奈良県に新しくきた人』(57.0%)と比べ多くなっています。
- 奈良での就労別に見ると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県内で働いている人』(63.9%)が『奈良県外で働いている人』(61.4%)と比べ多くなっています。

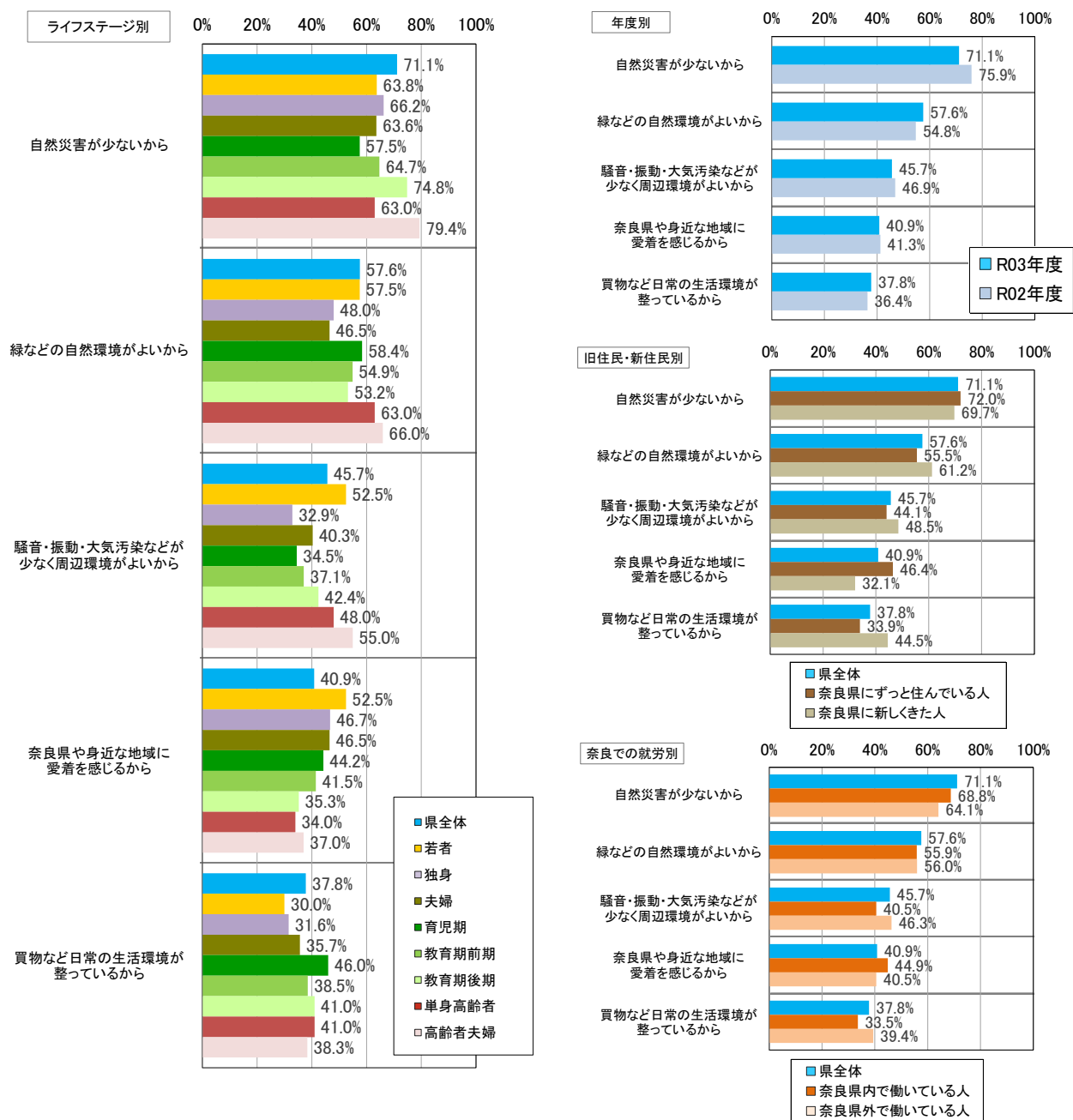


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

1-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由

(1) 将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由（問9 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

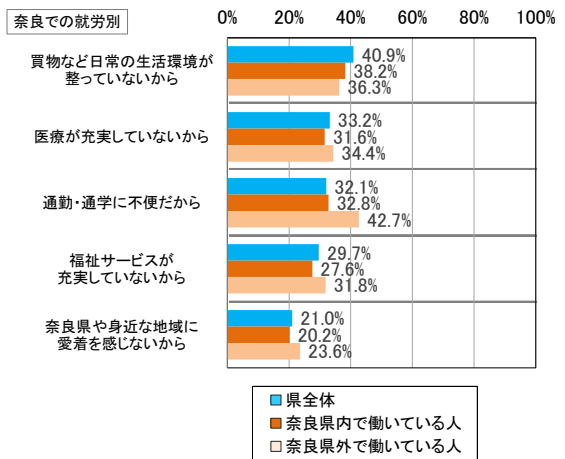
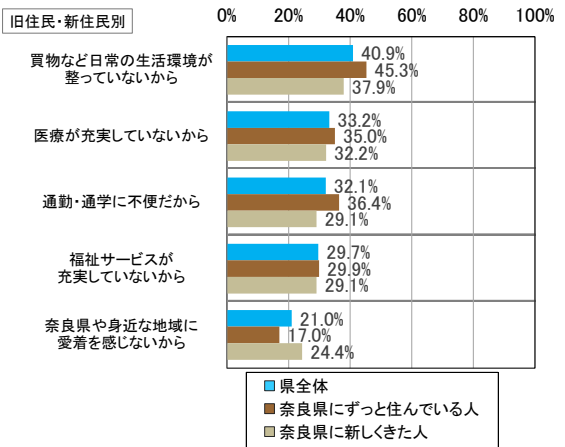
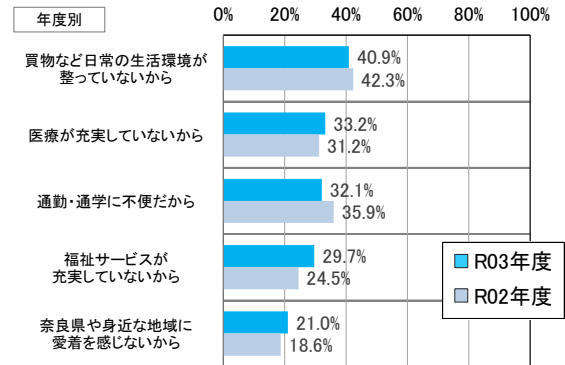
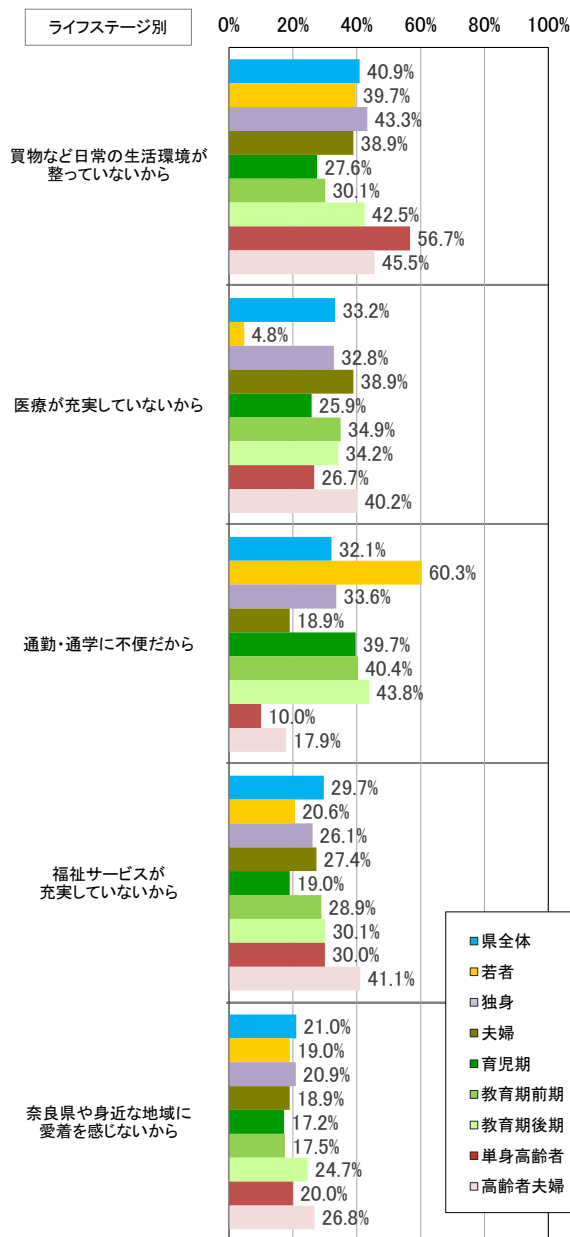
- 将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由を尋ねたところ、「自然災害が少ないから」(71.1%)が最も多く、次いで「緑などの自然環境がよいから」(57.6%)、「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」(45.7%)、「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」(40.9%)、「買物など日常の生活環境が整っているから」(37.8%)が多くなっています。
- 「自然災害が少ないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「緑などの自然環境がよいから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しく来た人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』と『奈良県外で働いている人』が同程度となっています。
- 「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しく来た人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「買物など日常の生活環境が整っているから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しく来た人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



(2) 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由

(問 10 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

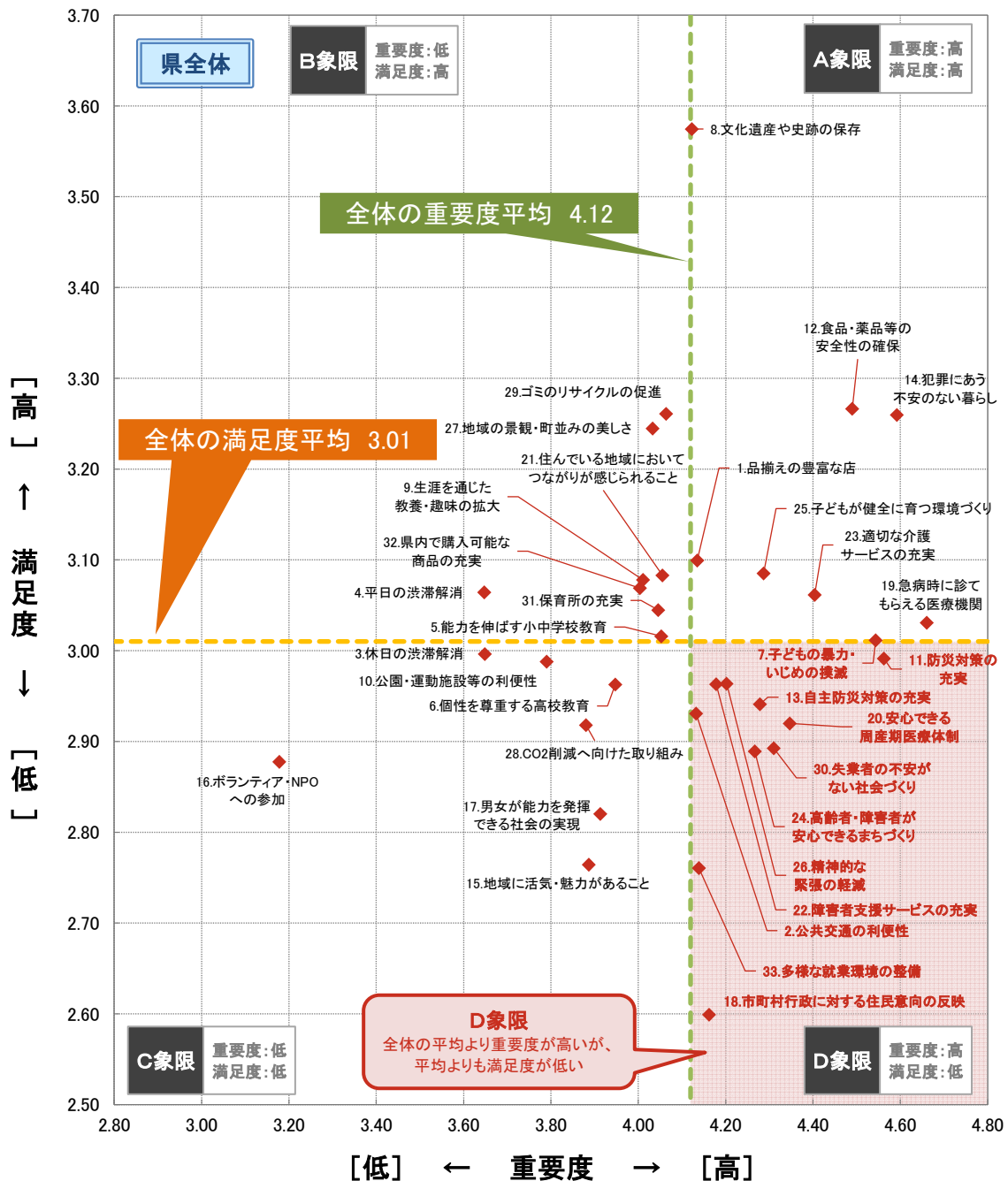
- 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由を尋ねたところ、「買物など日常生活環境が整っていないから」(40.9%)が最も多く、次いで「医療が充実していないから」(33.2%)、「通勤・通学に不便だから」(32.1%)、「福祉サービスが充実していないから」(29.7%)、「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」(21.0%)が多くなっています。
- 「買物など日常生活環境が整っていないから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「医療が充実していないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「通勤・通学に不便だから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「福祉サービスが充実していないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』が多く、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



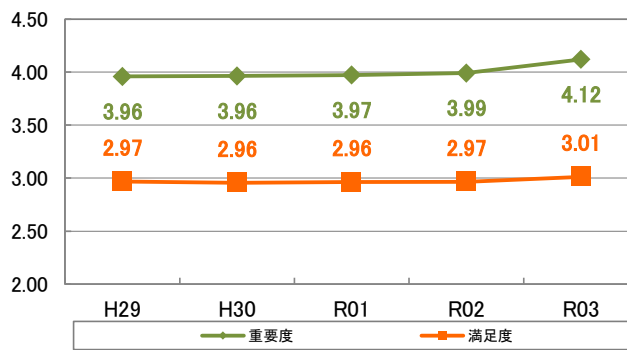
2. 県民の生活に関する重要度・満足度について(問12 5段階ポイント評価)

(1) 県全体

- 身近な生活に関する 33 項目それぞれの重要度と満足度を5点(高い)～1点(低い)の5段階(加重平均)で評価し、重要度と満足度の関係を整理しました。また、重要度と満足度の関係から課題・ニーズの大きさの指標となる「ニーズ得点」を算出しました。(次ページ参照) ニーズ得点は、重要度が高く、満足度が低い項目ほど高くなります。(「ニーズ得点 = <重要度(加重平均)> × <6 - 満足度(加重平均)>」により算出。)
- 県全体では、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「12. 食品・薬品等の安全性の確保」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



■ 県民の身近な生活に関する 33 項目の重要度と満足度の平均値の推移をみると、重要度の平均値は平成 29 年度からほぼ横ばいでしたが、今回大きく上昇しています。また、満足度の平均値も平成 29 年度から横ばいでしたが、今回は上昇しています。



【身近な生活に関する 33 項目の重要度・満足度・ニーズ得点（5 年間の比較）】

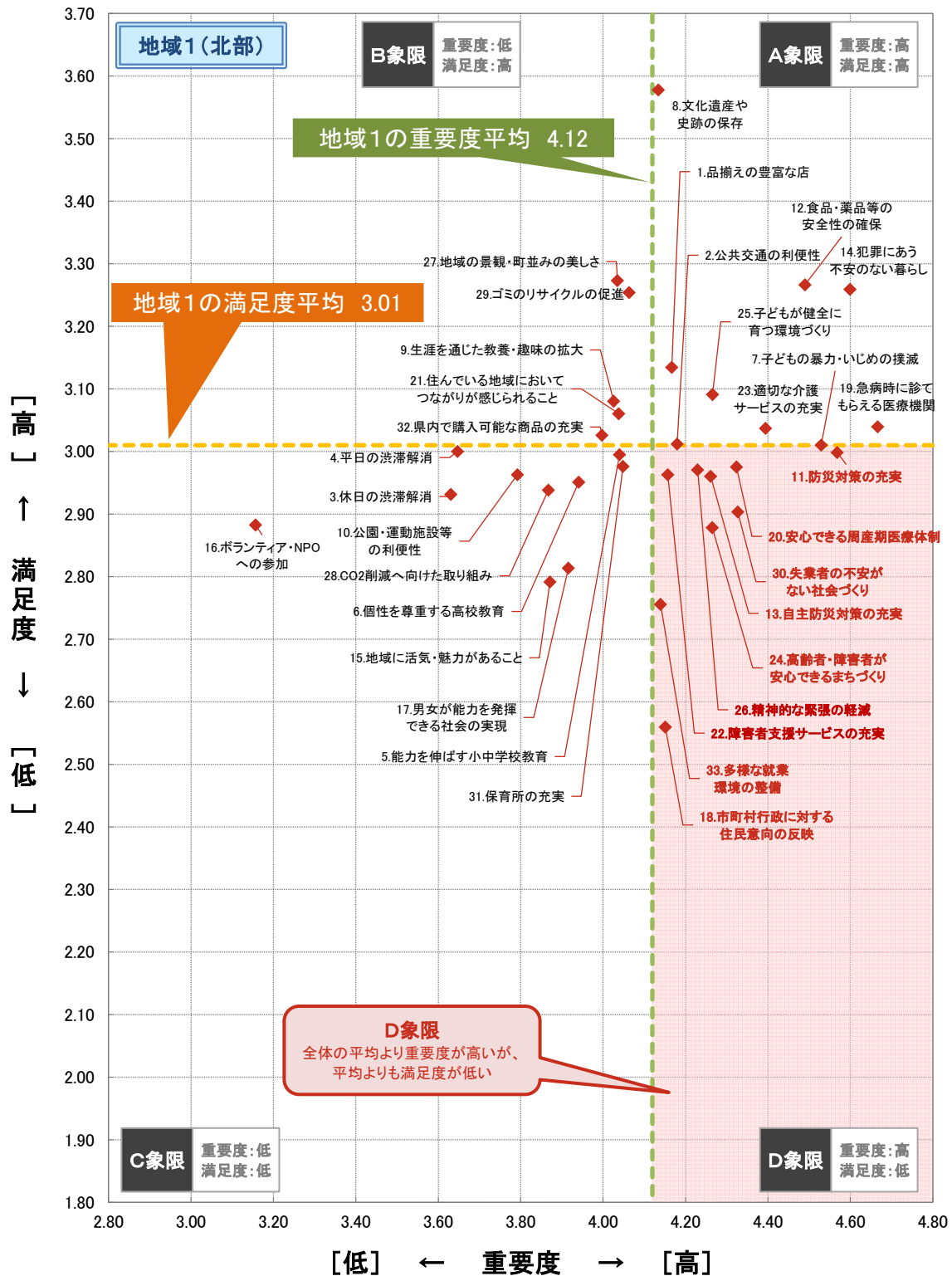
項目番号	項目	重要度					満足度					ニーズ得点					象限				
		R03	R02	R01	H30	H29	R03	R02	R01	H30	H29	R03	R02	R01	H30	H29	R03	R02	R01	H30	H29
1	品揃えの豊富な店が近くにあること	4.14	3.96	3.98	3.97	4.03	3.10	3.04	3.03	3.00	3.06	11.99	11.73	11.84	11.90	11.82	A	B	A	A	A
2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	4.13	4.02	4.19	4.13	4.12	2.93	2.81	2.79	2.84	2.89	12.68	12.83	13.45	13.06	12.80	D	D	D	D	D
3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.65	3.45	3.35	3.42	3.37	3.00	2.99	3.01	2.97	2.96	10.96	10.37	10.02	10.35	10.23	C	B	B	B	C
4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.65	3.47	3.39	3.43	3.38	3.06	3.04	3.08	3.06	3.07	10.71	10.29	9.92	10.06	9.91	B	B	B	B	B
5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	4.05	3.81	3.81	3.82	3.85	3.02	2.95	2.95	2.96	2.96	12.10	11.62	11.63	11.62	11.70	B	C	C	B	C
6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	3.95	3.75	3.76	3.72	3.75	2.96	2.92	2.91	2.92	2.92	11.99	11.57	11.61	11.46	11.53	C	C	C	C	C
7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	4.54	4.36	4.40	4.36	4.43	3.01	3.00	3.01	3.01	2.99	13.58	13.08	13.19	13.04	13.34	D	A	A	A	A
8	文化遺産や史跡が大事にされること	4.12	3.99	3.96	3.97	4.03	3.57	3.51	3.57	3.51	3.55	10.00	9.92	9.60	9.87	9.84	A	B	B	A	A
9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	4.01	3.81	3.78	3.77	3.78	3.08	3.02	3.00	3.03	3.03	11.72	11.36	11.34	11.20	11.23	B	B	B	B	B
10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	3.79	3.60	3.51	3.52	3.52	2.99	2.94	2.90	2.95	2.96	11.42	11.00	10.89	10.73	10.70	C	C	C	C	C
11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	4.56	4.50	4.44	4.38	4.39	2.99	2.90	2.89	2.91	2.93	13.73	13.92	13.81	13.55	13.49	D	D	D	D	D
12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	4.49	4.37	4.28	4.28	4.27	3.27	3.16	3.21	3.16	3.20	12.27	12.39	11.94	12.13	11.98	A	A	A	A	A
13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	4.28	4.22	4.19	4.14	4.16	2.94	2.87	2.84	2.79	2.79	13.09	13.22	13.25	13.31	13.35	D	D	D	D	D
14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	4.59	4.50	4.51	4.48	4.50	3.26	3.22	3.22	3.16	3.20	12.59	12.50	12.56	12.76	12.61	A	A	A	A	A
15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	3.89	3.79	3.78	3.79	3.80	2.76	2.73	2.72	2.69	2.73	12.58	12.41	12.41	12.53	12.42	C	C	C	C	C
16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	3.18	3.11	3.03	3.05	3.03	2.88	2.84	2.84	2.84	2.85	9.92	9.82	9.58	9.63	9.55	C	C	C	C	C
17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	3.91	3.73	3.69	3.68	3.65	2.82	2.81	2.78	2.77	2.82	12.44	11.93	11.86	11.90	11.60	C	C	C	C	C
18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	4.16	4.04	4.02	3.98	3.96	2.60	2.57	2.56	2.58	2.61	14.15	13.85	13.83	13.63	13.41	D	D	D	D	C
19	急病時に診てもらえる医療機関があること	4.66	4.60	4.58	4.57	4.58	3.03	2.99	3.00	3.01	2.95	13.84	13.83	13.73	13.67	13.95	A	A	A	A	D
20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	4.35	4.21	4.23	4.21	4.22	2.92	2.88	2.85	2.80	2.83	13.39	13.16	13.32	13.47	13.40	D	D	D	D	D
21	住んでいる地域において、互いに見守り、助け合うなどつながりが感じられること	4.06	3.93	3.98	3.99	3.98	3.08	3.02	3.05	3.00	3.04	11.83	11.72	11.74	11.99	11.77	B	B	A	A	A
22	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	4.18	4.04	4.02	4.03	4.01	2.96	2.92	2.92	2.88	2.90	12.69	12.47	12.40	12.56	12.44	D	D	D	D	D
23	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	4.40	4.30	4.32	4.31	4.29	3.06	3.02	2.98	2.97	2.98	12.94	12.83	13.06	13.04	12.97	A	A	A	A	A
24	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	4.27	4.18	4.17	4.16	4.14	2.89	2.83	2.77	2.82	2.83	13.27	13.22	13.47	13.22	13.13	D	D	D	D	D
25	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	4.29	4.17	4.15	4.18	4.15	3.09	3.05	3.03	3.04	3.04	12.50	12.30	12.35	12.40	12.28	A	A	A	A	A
26	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	4.20	4.11	4.05	4.05	4.03	2.96	2.98	2.97	2.97	2.99	12.76	12.41	12.25	12.26	12.14	D	A	A	A	A
27	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	4.03	3.95	3.91	3.92	3.91	3.24	3.21	3.21	3.21	3.26	11.11	11.01	10.94	10.95	10.74	B	B	B	B	B
28	一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと	3.88	3.83	3.77	3.71	3.68	2.92	2.89	2.87	2.89	2.89	11.96	11.92	11.79	11.54	11.44	C	C	C	C	C
29	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	4.06	3.98	3.97	3.95	3.86	3.26	3.20	3.23	3.26	3.26	11.13	11.14	11.01	10.82	10.56	B	B	A	B	B
30	失業の不安がなく働けること	4.31	4.20	4.17	4.15	4.16	2.89	2.83	2.83	2.82	2.81	13.39	13.29	13.19	13.18	13.29	D	D	D	D	D
31	保育所の数や定員を増やすことにより、待機児童を解消すること	4.05	3.87	3.88	3.90	3.88	3.04	3.00	3.01	3.00	3.00	11.96	11.62	11.58	11.69	11.64	B	B	B	B	B
32	県内で買いたいものが販売されていること	4.00	3.85	3.79	3.80	3.79	3.07	2.99	3.04	2.99	2.99	11.74	11.58	11.22	11.43	11.42	B	B	B	B	B
33	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	4.14	4.01	4.00	3.95	3.96	2.76	2.73	2.72	2.71	2.67	13.41	13.12	13.10	13.01	13.18	D	D	D	C	C

(注)「重要度と満足度の関係」の各年度のA～Dの記号の対応については、前ページのA～D象限に対応している。網掛けした項目は満足度が当該年度の全項目の平均値を下回るもの(C象限・D象限)であり、濃い網掛けはそのうち重要度が平均値を上回るもの(D象限)、すなわち重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目である。

(2) 地域別

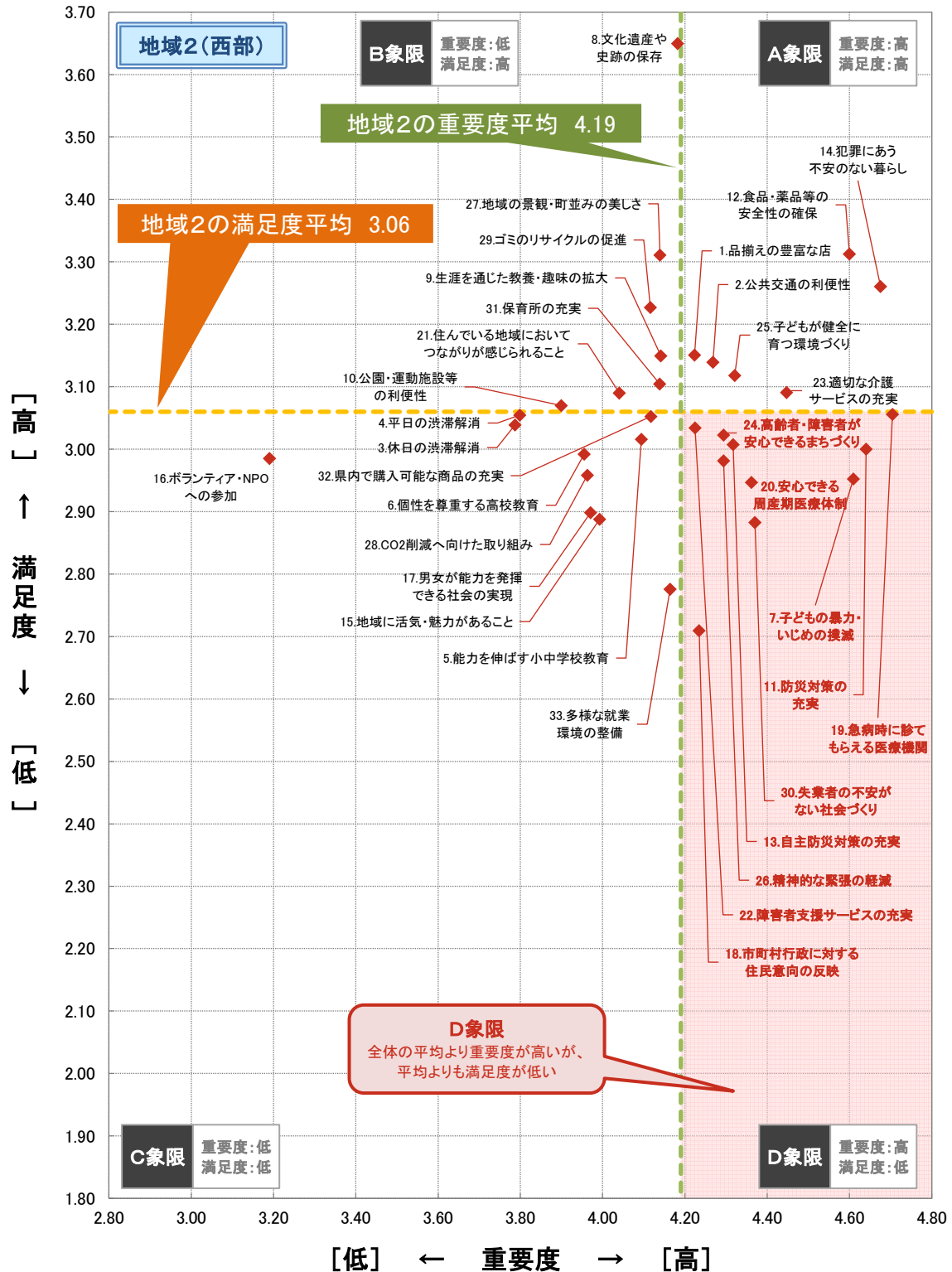
①地域1（北部）

- 『地域1（北部）』では、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「27. 地域の景観・町並みの美しさ」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



②地域2（西部）

- 『地域2（西部）』では、「7. 子どもの暴力・いじめの撲滅」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「12. 食品・薬品等の安全性の確保」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。

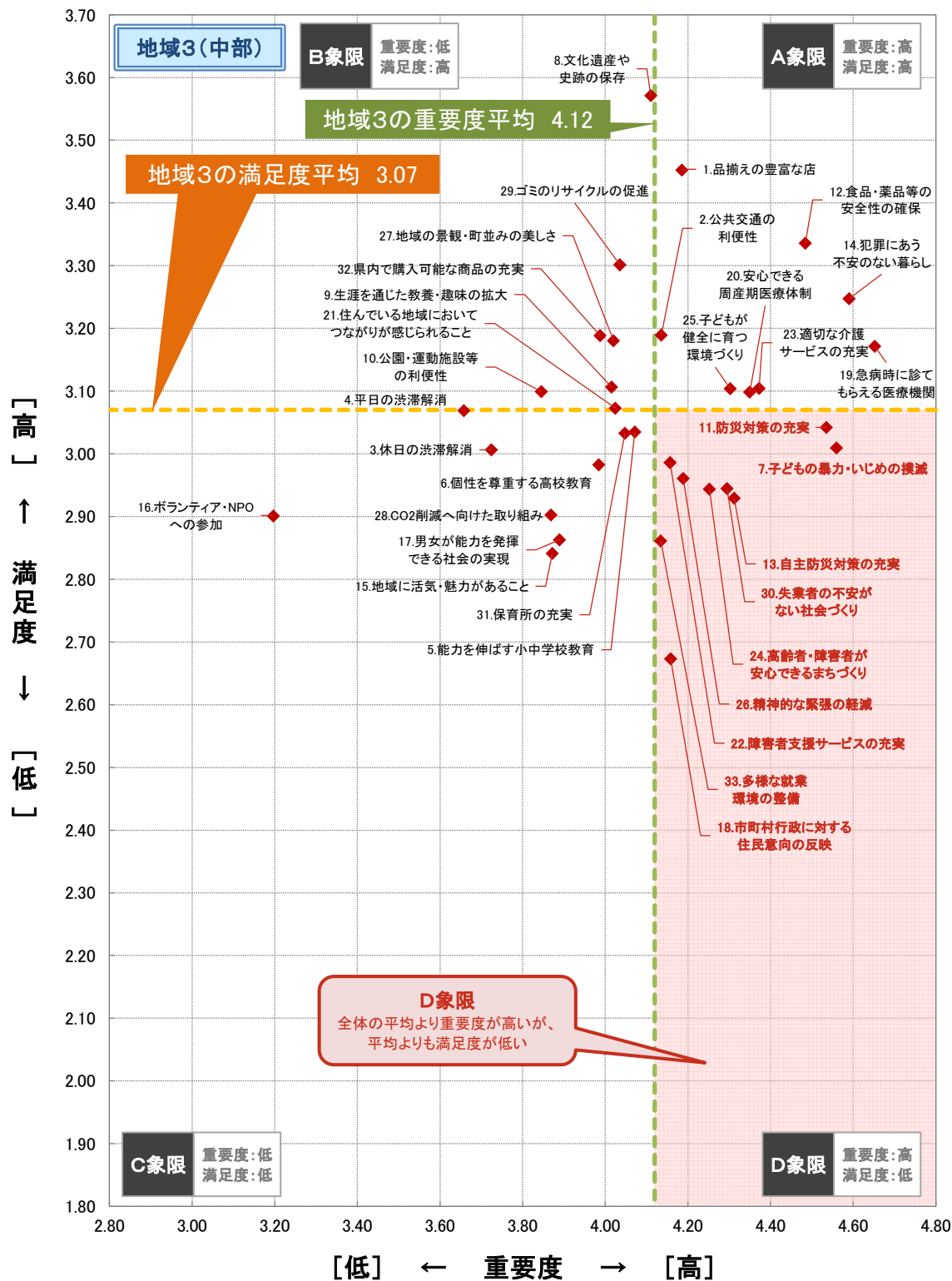


③地域3（中部）

■『地域3（中部）』では、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「7. 子どもの暴力・いじめの撲滅」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。

■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「15. 地域に活気・魅力があること」となっています。

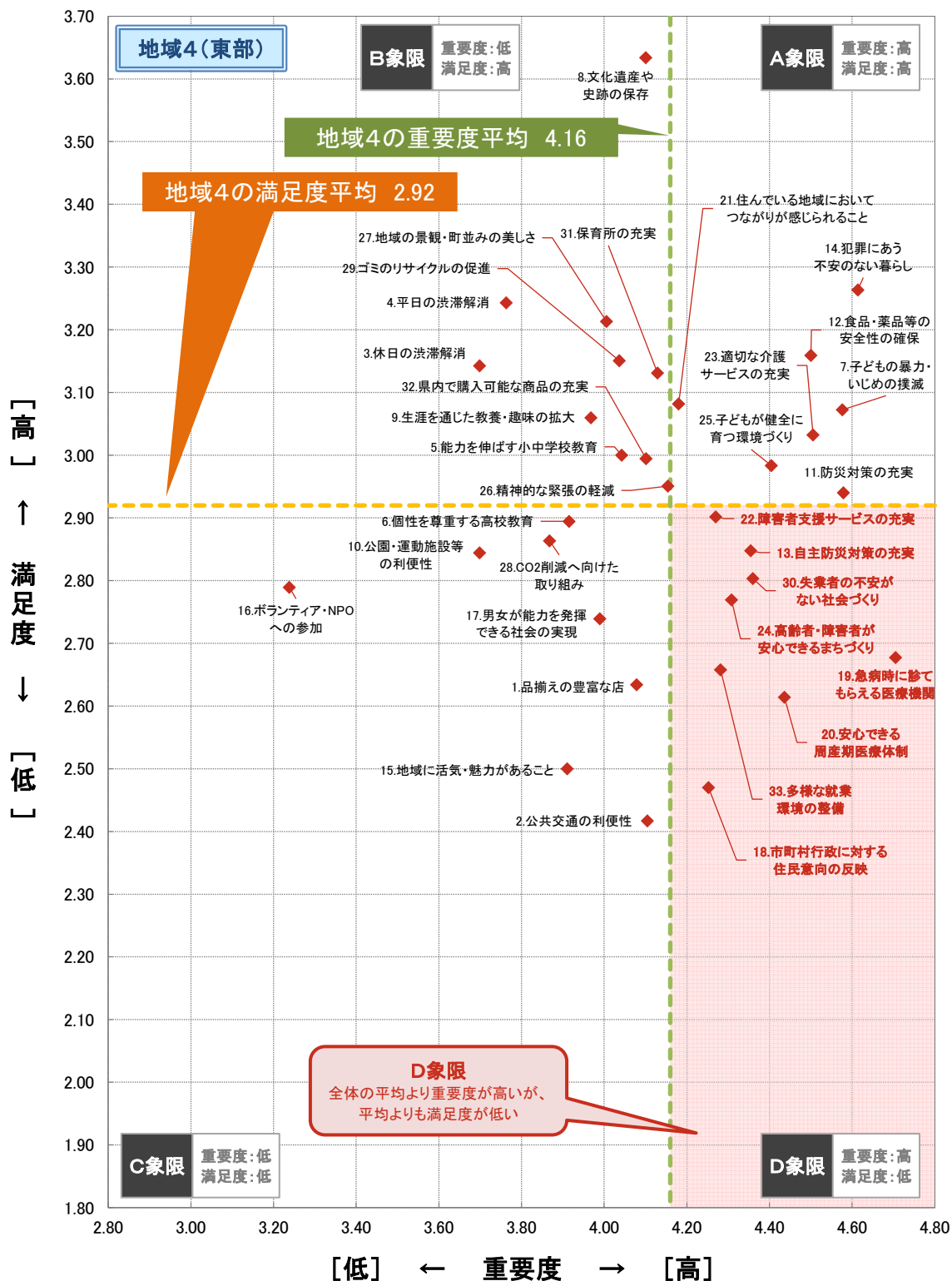


④地域4（東部）

■『地域4（東部）』では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「20. 安心できる周産期医療体制」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」などのニーズ得点が高くなっています。

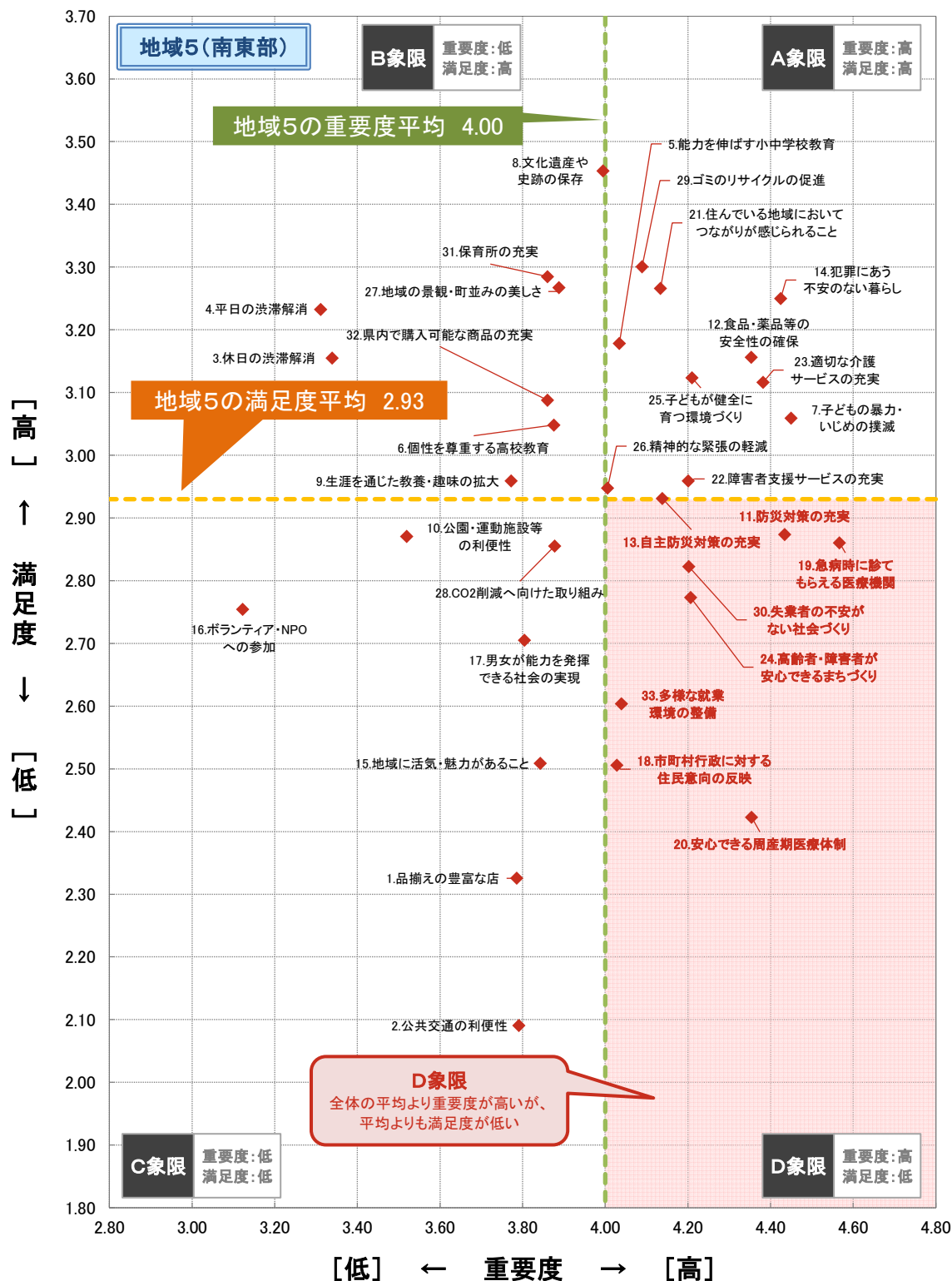
■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」となっています。



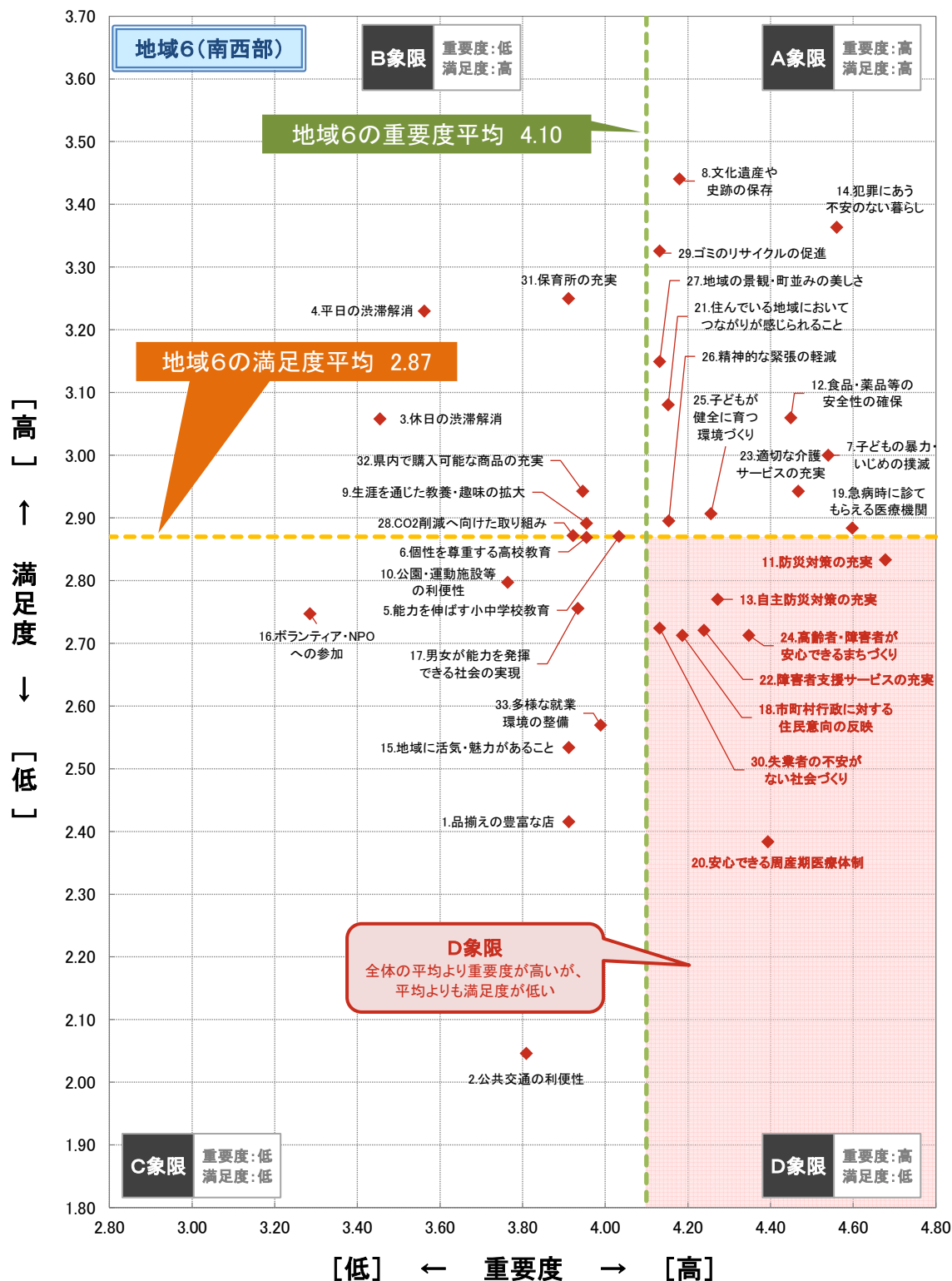
⑤地域5（南東部）

- 『地域5(南東部)』では、「20. 安心できる周産期医療体制」、「2. 公共交通の利便性」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「7. 子どもの暴力・いじめの撲滅」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。



⑥地域6（南西部）

- 『地域6(南西部)』では、「20. 安心できる周産期医療体制」、「2. 公共交通の利便性」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「11. 防災対策の充実」が最も高く、次いで「19. 急病時に診てもらえる医療機関」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「20. 安心できる周産期医療体制」となっています。

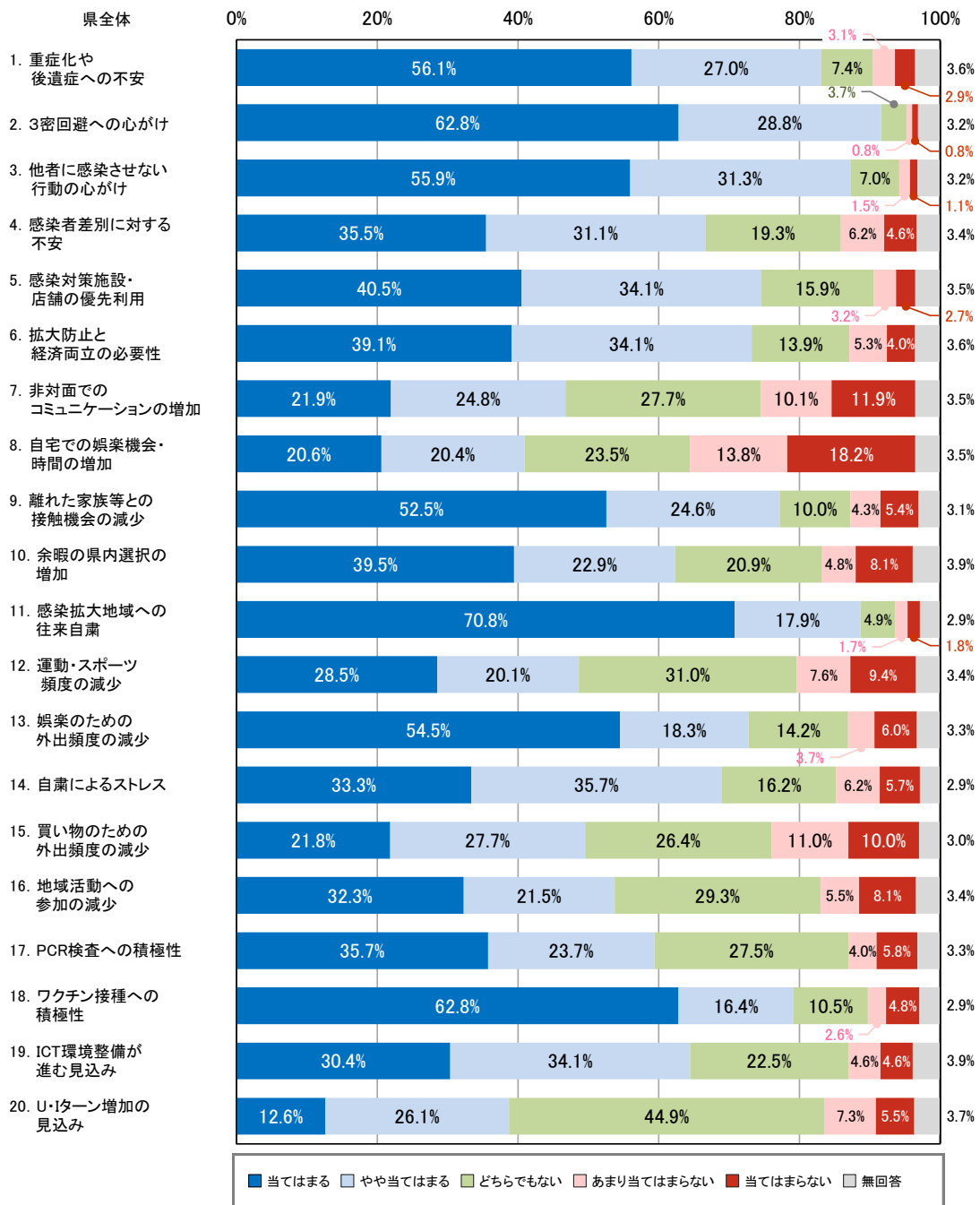


3. 新型コロナウイルス感染症の影響(問11 5段階ポイント評価)

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大以後に起きた意識及び行動の変化 (問11)

■ 新型コロナウイルス感染症拡大以後に起きた意識及び行動の変化について、「当てはまる」(「当てはまる」+「やや当てはまる」)と答えた人は、「2. 3密回避への心がけ」が91.6%で最も多く、次いで「11. 感染拡大地域への往来自粛」(88.7%)、「3. 他者に感染させない行動の心がけ」(87.2%)、「1. 重症化や後遺症への不安」(83.1%)が8割以上で多くなっています。

■ 一方、「当てはまらない」(「当てはまらない」+「あまり当てはまらない」)と答えた人は、「8. 自宅での娯楽機会・時間の増加」が32.0%で最も多く、次いで「7. 非対面でのコミュニケーションの増加」(22.0%)、「15. 買い物のための外出頻度の減少」(21.0%)が2割以上で多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。
 ※全ての設問は職の有無にかかわらず集計しています。

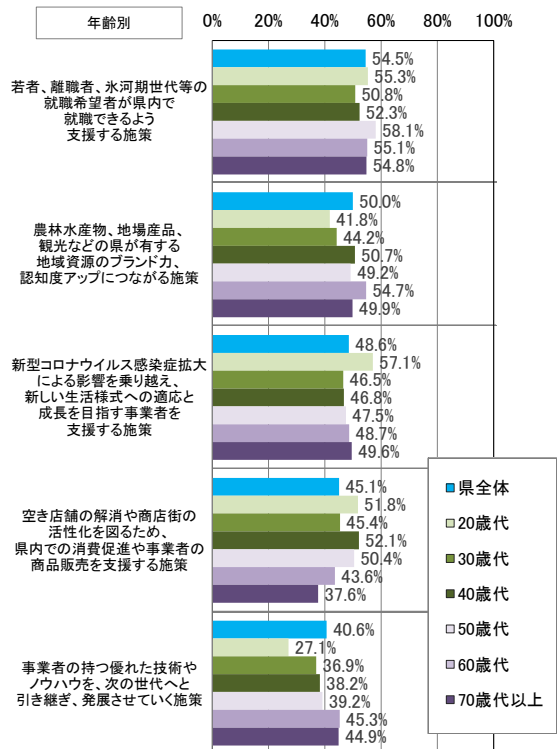
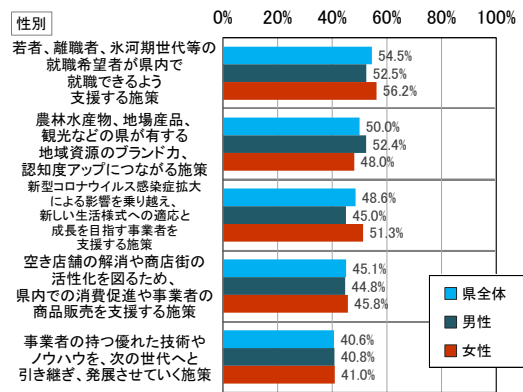
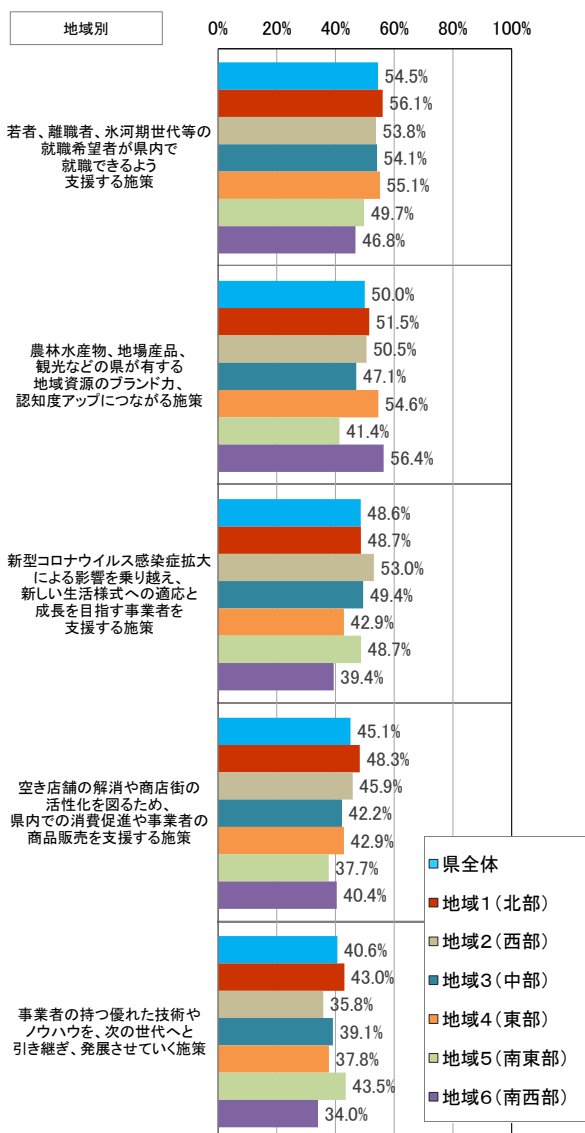
4～7. 県民の生活に関する意識やニーズについて

4. 栄える「都」をつくる（産業）

(1) 今後期待する県内産業・経済活性化に向けた「産業興し」の取組

(問 13 県全体についての上位5項目を掲載)

- 今後期待する県内産業・経済活性化に向けた「産業興し」の取組について尋ねたところ、「若者、離職者、氷河期世代等の就職希望者が県内で就職できるよう支援する施策」(54.5%)が最も多く、次いで「農林水産物、地場産品、観光などの県が有する地域資源のブランド力、認知度アップにつながる施策」(50.0%)、「新型コロナウイルス感染症拡大による影響を乗り越え、新しい生活様式への適応と成長を目指す事業者を支援する施策」(48.6%)、「空き店舗の解消や商店街の活性化を図るため、県内での消費促進や事業者の商品販売を支援する施策」(45.1%)、「事業者の持つ優れた技術やノウハウを、次の世代へと引き継ぎ、発展させていく施策」(40.6%)が多くなっています。
- 「若者、離職者、氷河期世代等の就職希望者が県内で就職できるよう支援する施策」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』、性別では『女性』、年齢別では『50歳代』が最も多くなっています。
- 「農林水産物、地場産品、観光などの県が有する地域資源のブランド力、認知度アップにつながる施策」と答えた人については、地域別では『地域6(南西部)』、性別では『男性』、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。
- 「新型コロナウイルス感染症拡大による影響を乗り越え、新しい生活様式への適応と成長を目指す事業者を支援する施策」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』、性別では『女性』、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「空き店舗の解消や商店街の活性化を図るため、県内での消費促進や事業者の商品販売を支援する施策」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』、性別では『女性』、年齢別では『40歳代』が最も多くなっています。
- 「事業者の持つ優れた技術やノウハウを、次の世代へと引き継ぎ、発展させていく施策」と答えた人については、地域別では『地域5(南東部)』が最も多く、性別では『男性』と『女性』が同程度、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。



(2) 県外で利用することが多い商業施設(問14 2つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

■ 県外で利用することが多い商業施設は、「遊園地、テーマパーク」(45.1%)が最も多く、次いで「百貨店」(35.8%)、「アウトレットモール」(33.7%)、「レストラン、専門料理店」(15.9%)、「複合商業施設(ショッピングモールなど)」(11.9%)が多くなっています。

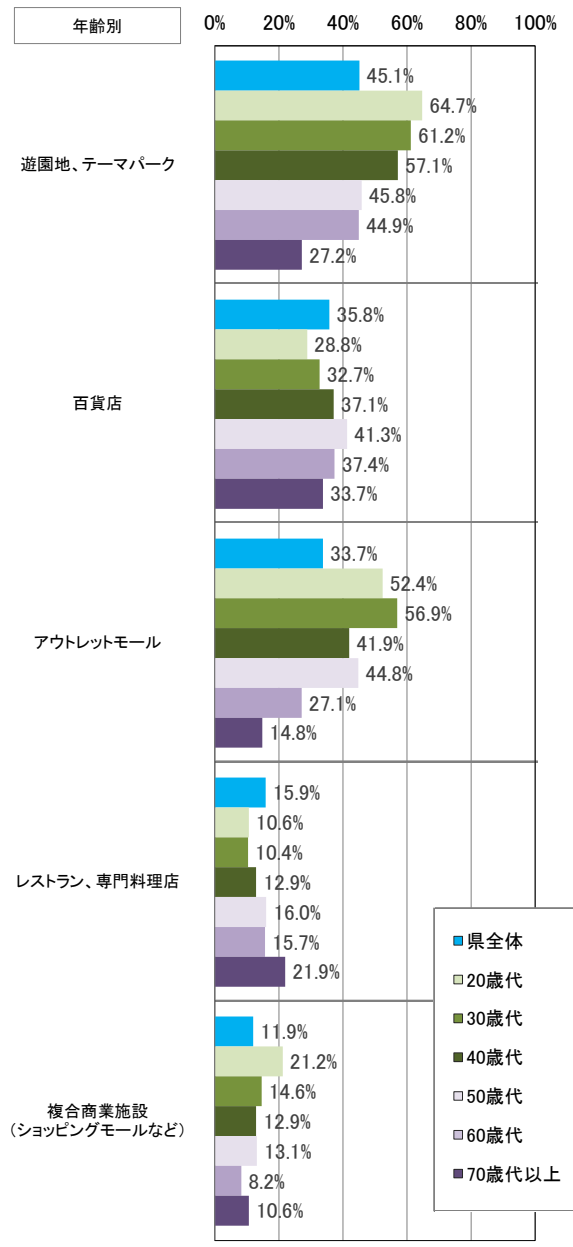
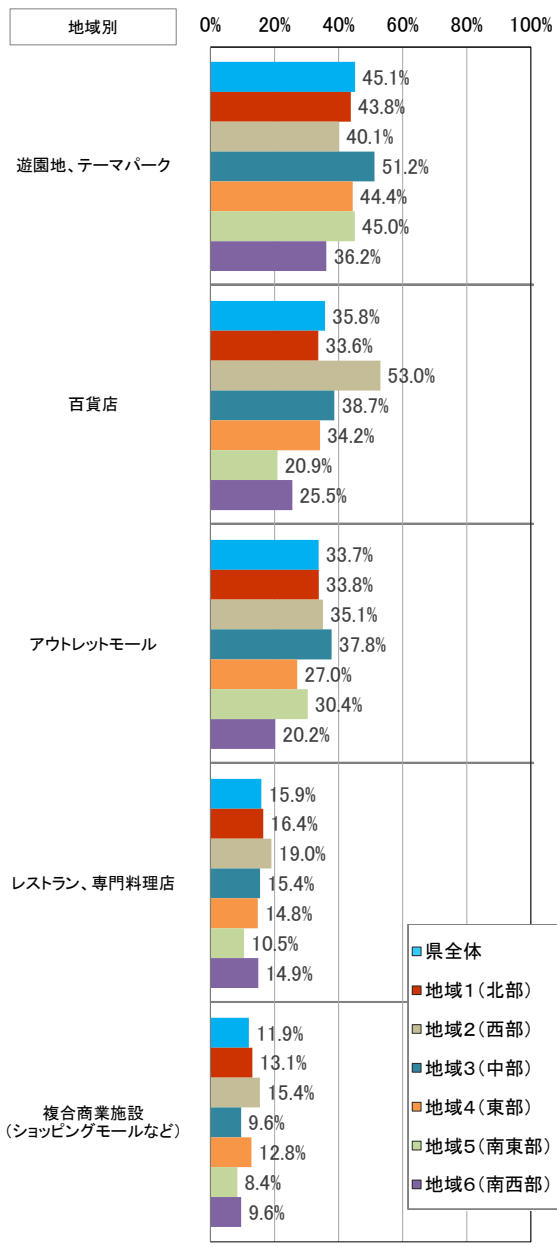
■ 「遊園地、テーマパーク」と答えた人については、地域別では『地域3(中部)』、年齢別では年代が下がるほど多くなっています。

■ 「百貨店」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』、年齢別では『50歳代』が多くなっています。

■ 「アウトレットモール」と答えた人については、地域別では『地域3(中部)』、年齢別では『30歳代』が多くなっています。

■ 「レストラン、専門料理店」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』、年齢別では『70歳代以上』が多くなっています。

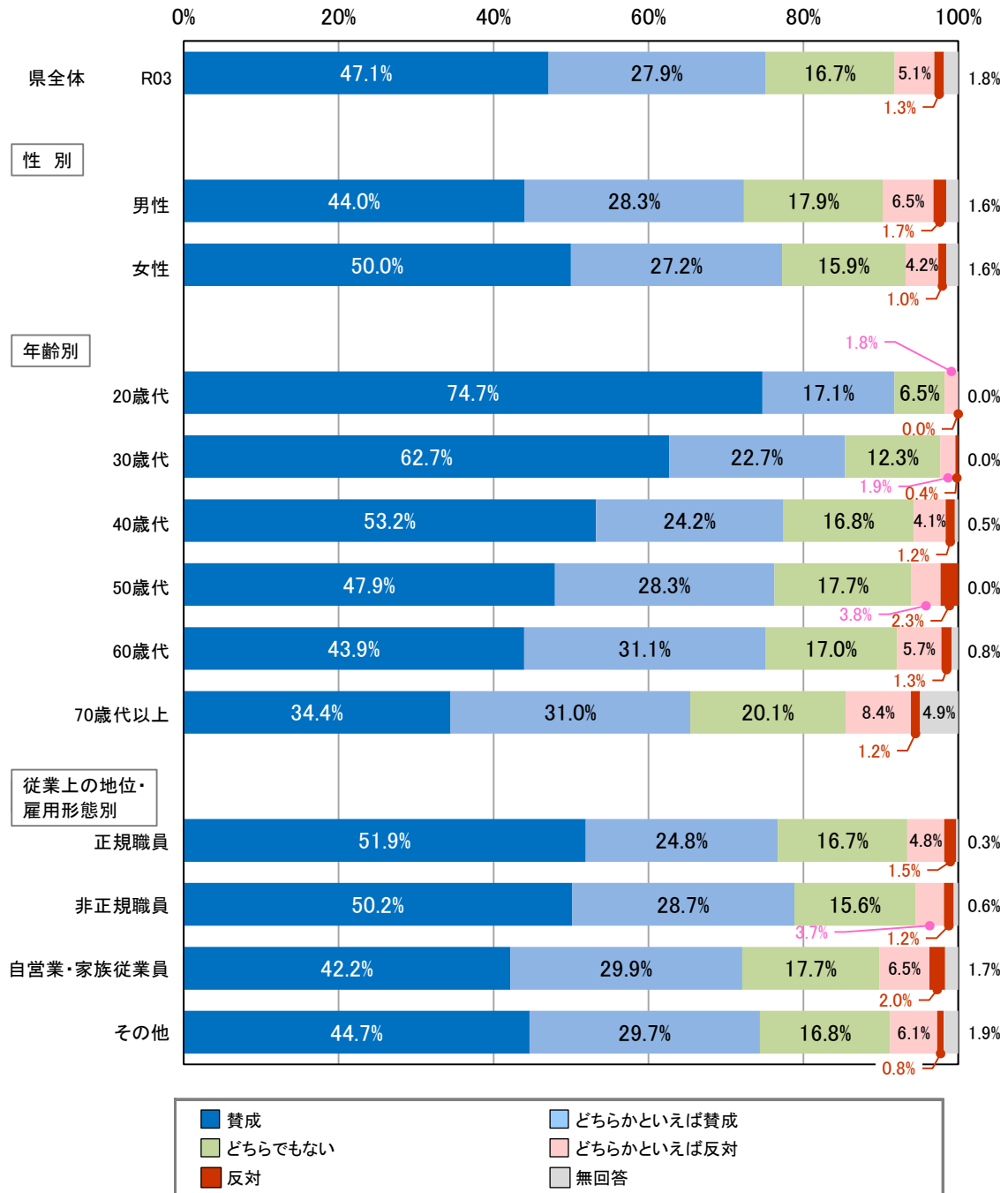
■ 「複合商業施設(ショッピングモールなど)」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』、年齢別では『20歳代』が多くなっています。



5. 栄える「都」をつくる（雇用）

（1）男性の育児休業への賛否（問21）

- 男性の育児休業については、「賛成」（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）している人は 75.1%、「反対」（「反対」+「どちらかといえば反対」）している人は 6.4%となっています。
- 性別にみると、「賛成」している人は『女性』（77.2%）と、『男性』（72.3%）より多くなっています。
- 年齢別にみると、「賛成」している人は、年代が下がるほど多く、最も多い『20 歳代』で 91.8%、最も少ない『70 歳代以上』で 65.4%となっています。
- 従業上の地位・雇用形態別にみると、「賛成」している人は、『非正規職員』（78.8%）で最も多くなっていますが、全層で7割を超えています。

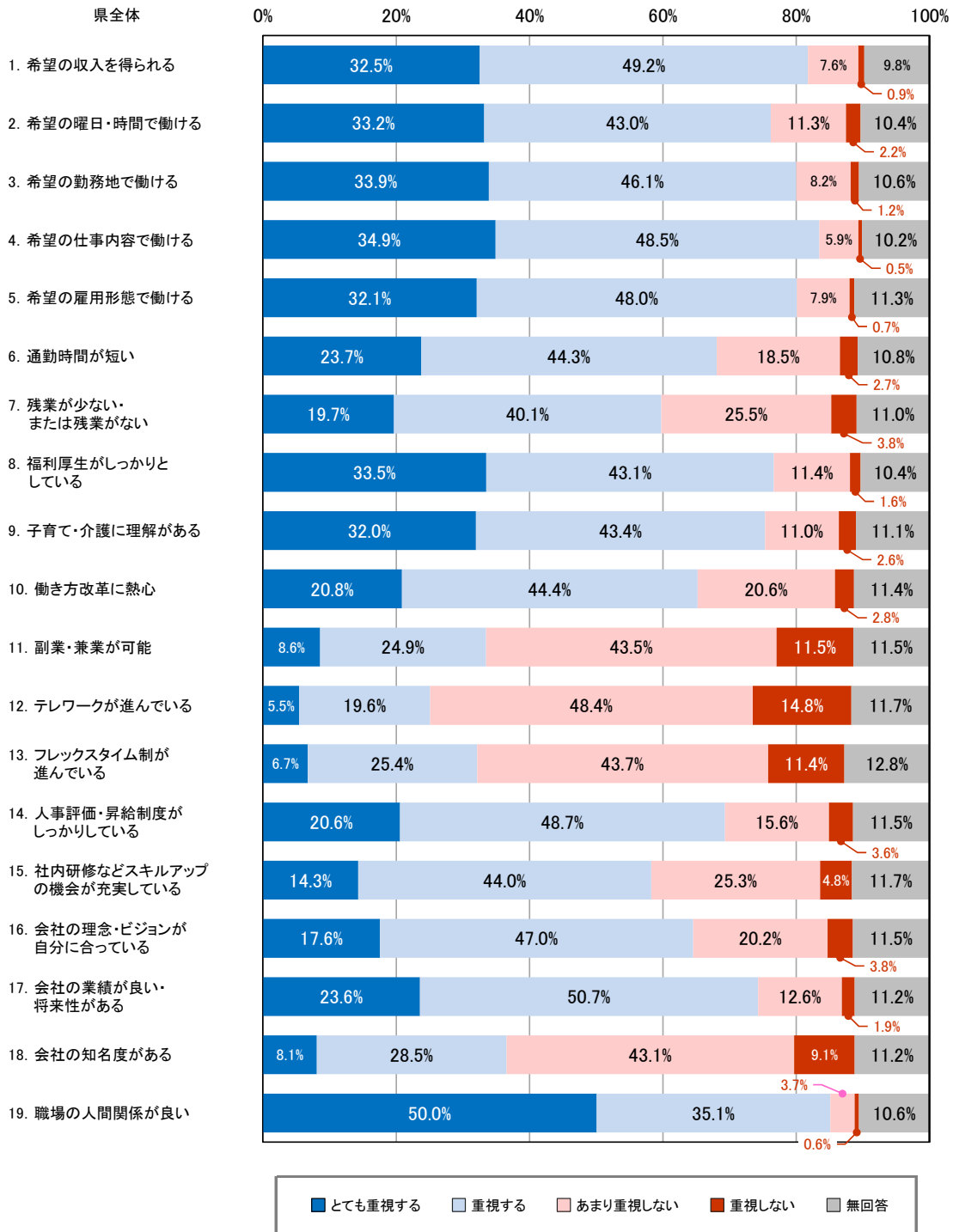


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(2) 仕事を選ぶ際の重視度 (問 22)

■ 仕事を選ぶ際の重視度について、「重視する」(「とても重視する」+「重視する」と答えた人は、「19. 職場の人間関係が良い」が 85.1%で最も多く、次いで「4. 希望の仕事内容で働ける」(83.4%)、「1. 希望の収入を得られる」(81.7%)、「5. 希望の雇用形態で働ける」(80.1%)、「3. 希望の勤務地で働ける」(80.0%)が8割以上で多くなっています。

■ 一方、「重視しない」(「重視しない」+「あまり重視しない」と答えた人は、「12. テレワークが進んでいる」が 63.2%で最も多く、次いで「13. フレックスタイム制が進んでいる」「11. 副業・兼業が可能」(ともに 55.1%)、「18. 会社の知名度がある」(52.2%)が5割以上で多くなっています。

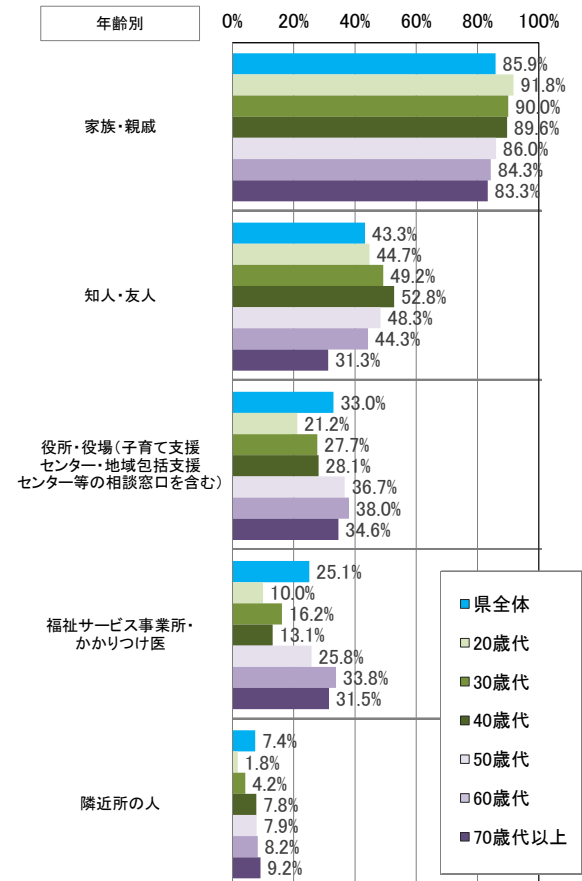
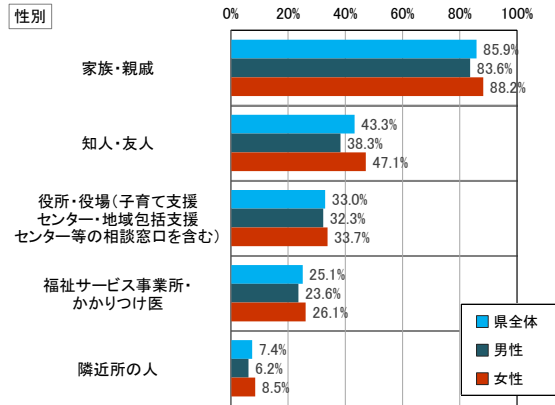
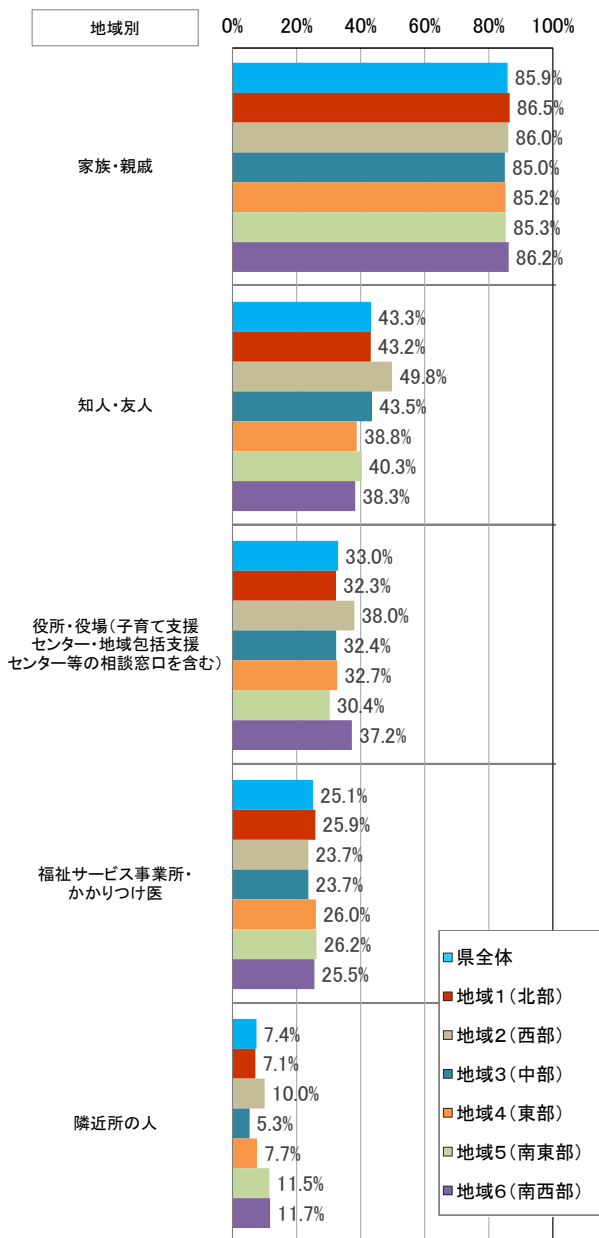


6. 健やかな「都」をつくる（医療・福祉）

（1）くらしや医療、福祉など生活上の問題で困ったときの相談先

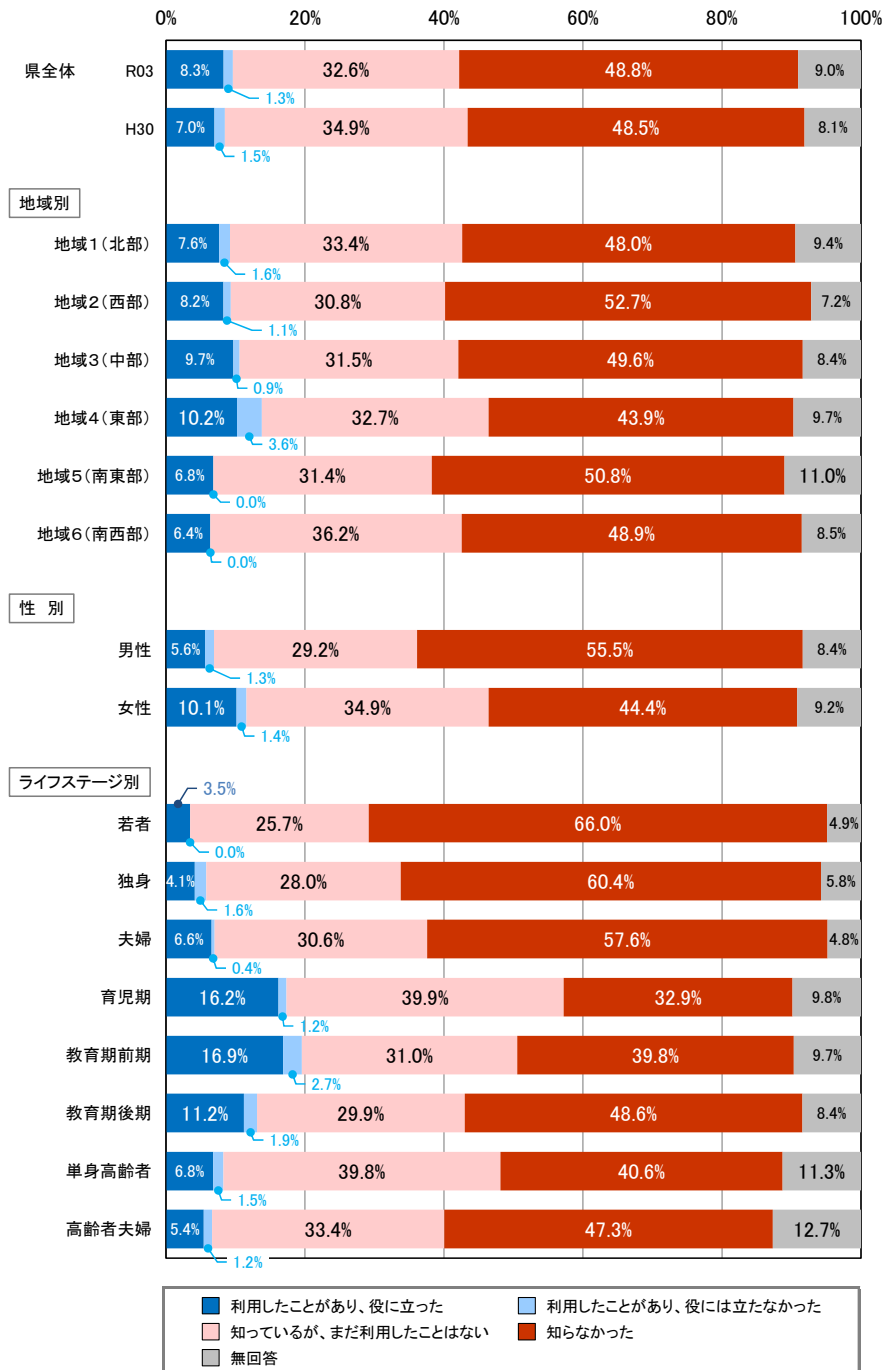
（問 23 県全体についての上位 5 項目を掲載）

- くらしや医療、福祉など生活上の問題で困ったときの相談先について尋ねたところ、「家族・親戚」(85.9%)が最も多く、次いで「知人・友人」(43.3%)、「役所・役場(子育て支援センター・地域包括支援センター等の相談窓口を含む)」(33.0%)、「福祉サービス事業所・かかりつけ医」(25.1%)、「隣近所の人」(7.4%)となっています。
- 「家族・親戚」と答えた人については、地域別ではあまり差がみられず、性別では『女性』、年齢別では『20 歳代』が最も多くなっています。
- 「知人・友人」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』、性別では『女性』、年齢別では『40 歳代』が最も多くなっています。
- 「役所・役場(子育て支援センター・地域包括支援センター等の相談窓口を含む)」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』、性別では『女性』、年齢別では『60 歳代』が最も多くなっています。
- 「福祉サービス事業所・かかりつけ医」と答えた人については、地域別では『地域5(南東部)』、性別では『女性』、年齢別では『60 歳代』が最も多くなっています。
- 「隣近所の人」と答えた人については、地域別では『地域6(南西部)』、性別では『女性』、年齢別では『70 歳代以上』が最も多くなっています。



(2) 「奈良県救急安心センター相談ダイヤル (#7119)」の認知度・利用状況 (問 28①)

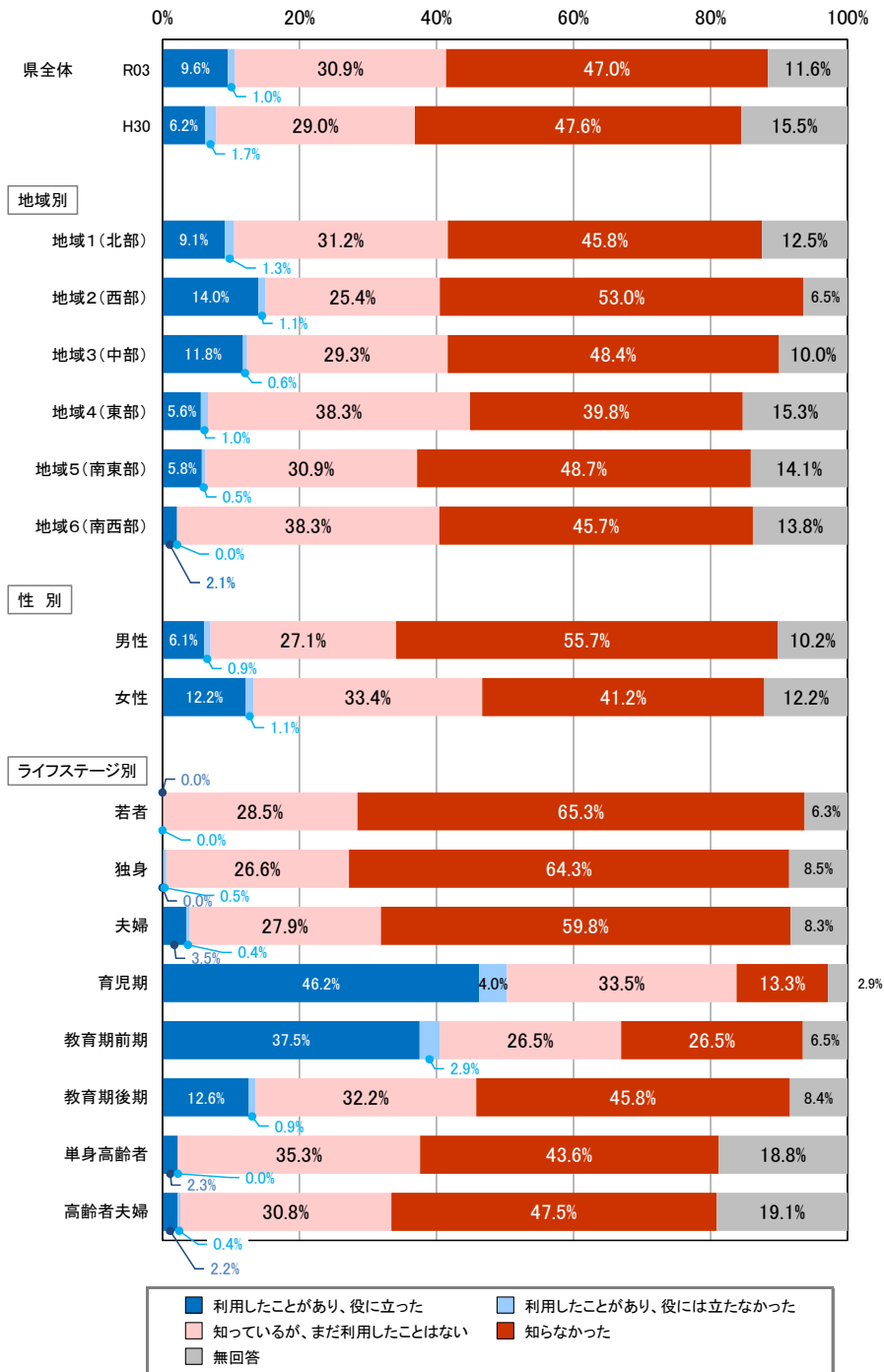
- 「奈良県救急安心センター相談ダイヤル(#7119)」については、「利用経験あり」(「利用したことがあり、役に立った」+「利用したことがあり、役には立たなかった」)の人は 9.6%、「認知度」(「利用したことがあり、役に立った」+「利用したことがあり、役には立たなかった」+「知っているが、まだ利用したことはない」)は 42.2%となっています。平成 30 年度と比較すると、認知度は 1.2 ポイント減少しています。
- 地域別に見ると、「利用経験あり」の人は『地域4(東部)』で 13.8%と最も多く、「認知度」も『地域4(東部)』で 46.4%と最も多くなっています。
- 性別に見ると、「利用経験あり」の人は『女性』で 11.6%と『男性』より多く、「認知度」も『女性』で 46.4%と『男性』より多くなっています。
- ライフステージ別に見ると、「利用経験あり」の人は『教育期前期』で 19.6%と最も多く、「認知度」は『育児期』で 57.2%と最も多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(3) 「子ども救急電話相談 (#8000)」の認知度・利用状況 (問 28②)

- 「子ども救急電話相談 (#8000)」については、「利用経験あり」(「利用したことがあり、役に立った」+「利用したことがあり、役には立たなかった」)の人は 10.5%、「認知度」(「利用したことがあり、役に立った」+「利用したことがあり、役には立たなかった」+「知っているが、まだ利用したことはない」)は 41.4%となっています。平成 30 年度と比較すると、認知度は 4.6%増加しています。
- 地域別にみると、「利用経験あり」の人は『地域2(西部)』で 15.1%と最も多く、「認知度」は『地域4(東部)』で 44.9%と最も多くなっています。
- 性別にみると、「利用経験あり」の人は『女性』で 13.3%と『男性』より多く、「認知度」も『女性』で 46.7%と『男性』より多くなっています。
- ライフステージ別にみると、「利用経験あり」の人は『育児期』で 50.3%と最も多く、「認知度」も『育児期』で 83.8%と最も多くなっています。

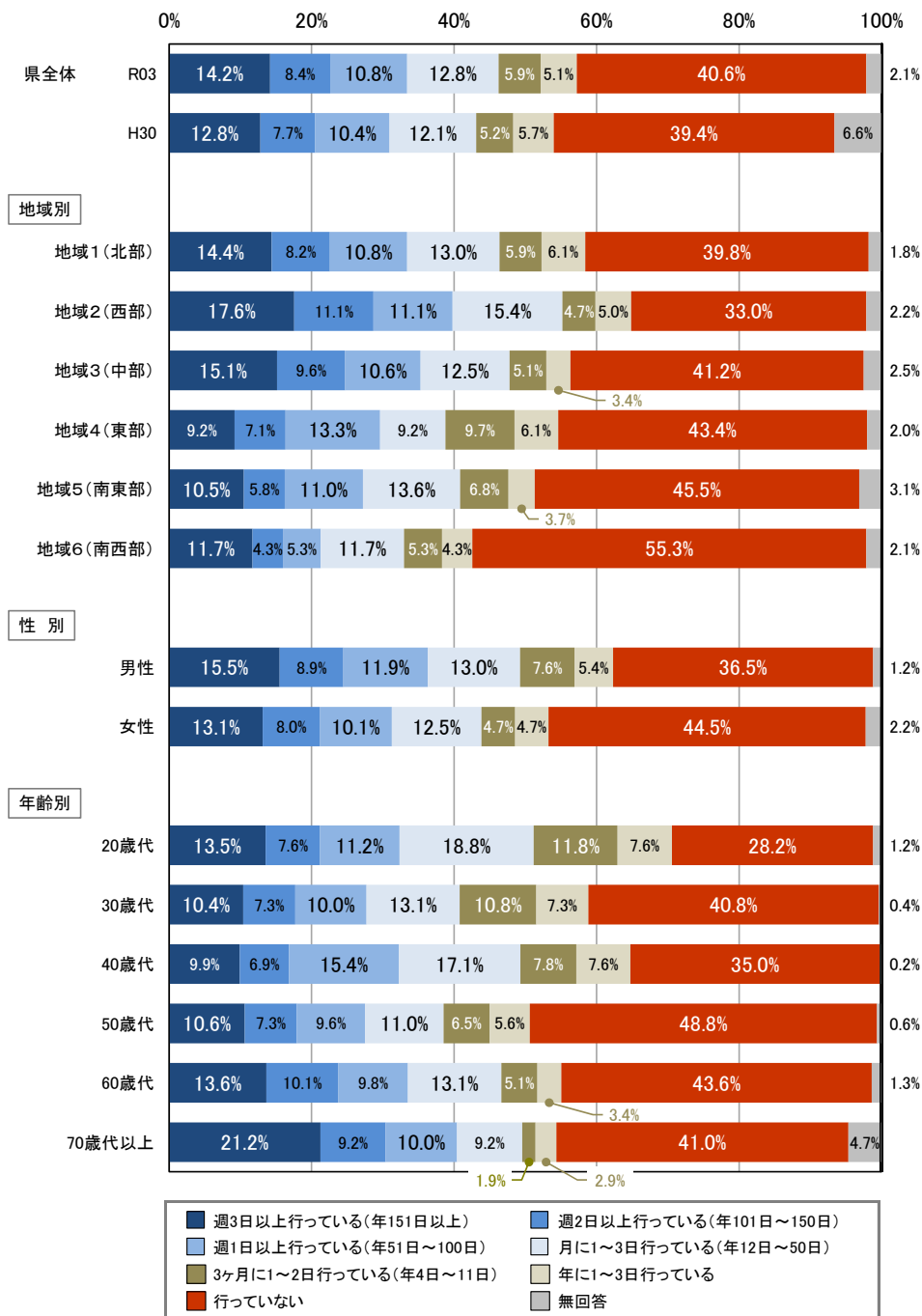


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

7. 健やかな「都」をつくる（スポーツ振興）

（1）この1年間に運動・スポーツを行った日数（問31）

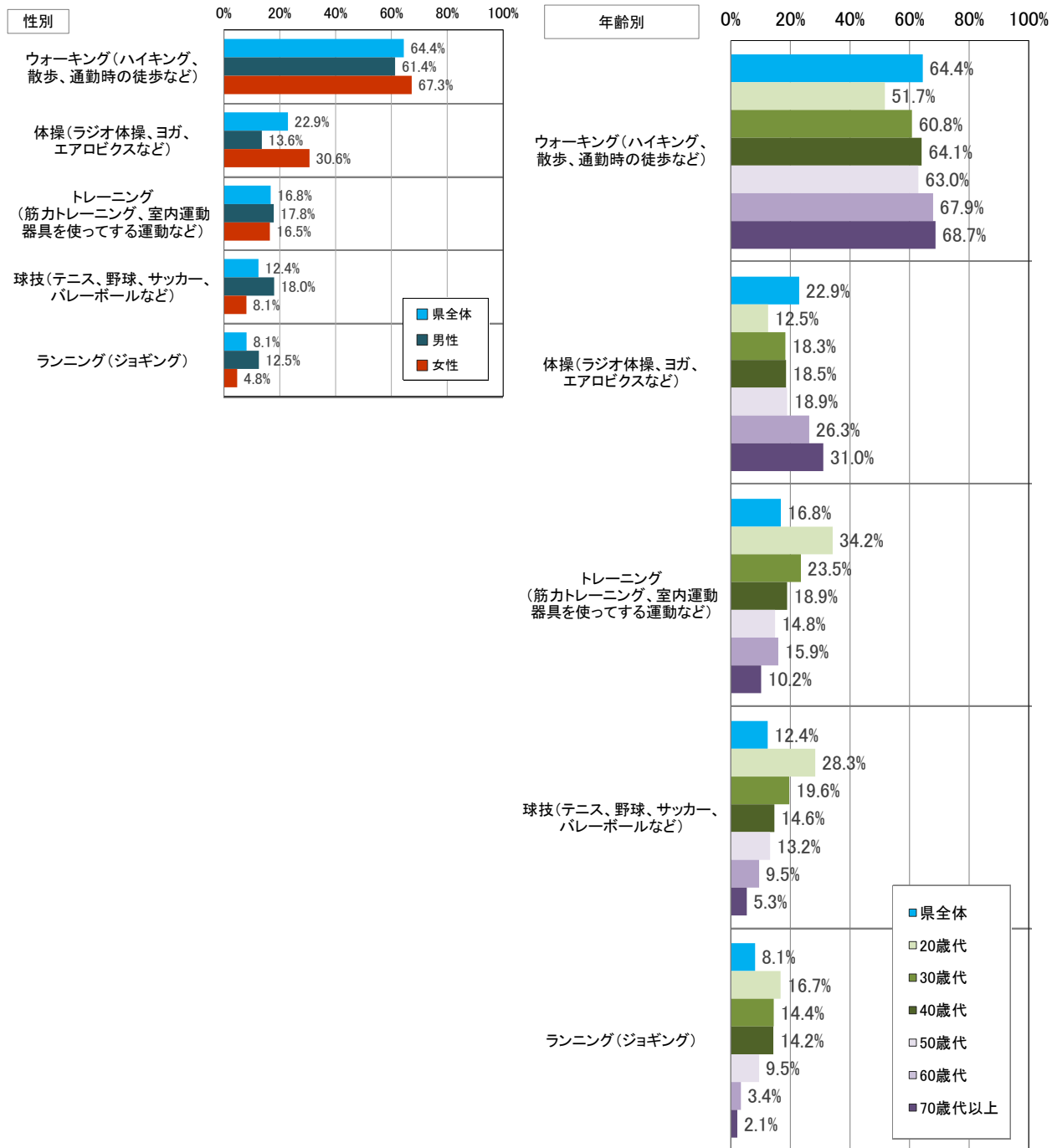
- この1年間に運動・スポーツを1日でも行った人の割合（「週3日以上行っている」～「年に1～3日行っている」の合計）は 57.2%で、平成 30 年度(54.0%)と比べて 3.2 ポイント増加しています。一方、「行っていない」と答えた人は 40.6%で、平成 30 年度(39.4%)と比べて 1.2 ポイント増加しています。
- 1日でも行った人の割合を地域別にみると、『地域2(西部)』(64.9%)が最も多く、『地域6(南西部)』(42.6%)が最も少なくなっています。他の地域では5割台となっています。
- 1日でも行った人の割合を性別にみると、『男性』(62.3%)の方が『女性』(53.3%)より 9.0 ポイント多くなっています。
- 1日でも行った人の割合を年齢別にみると、『20 歳代』(70.6%)が最も多く、続いて『40 歳代』(64.7%)となっており、他の年齢層では5割台となっています。また、『70 歳代以上』では、「週に3日以上行っている」と答えた人が他の年代と比べて多くなっています。一方、「行っていない」と答えた人は『50 歳代』(48.8%)で最も多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

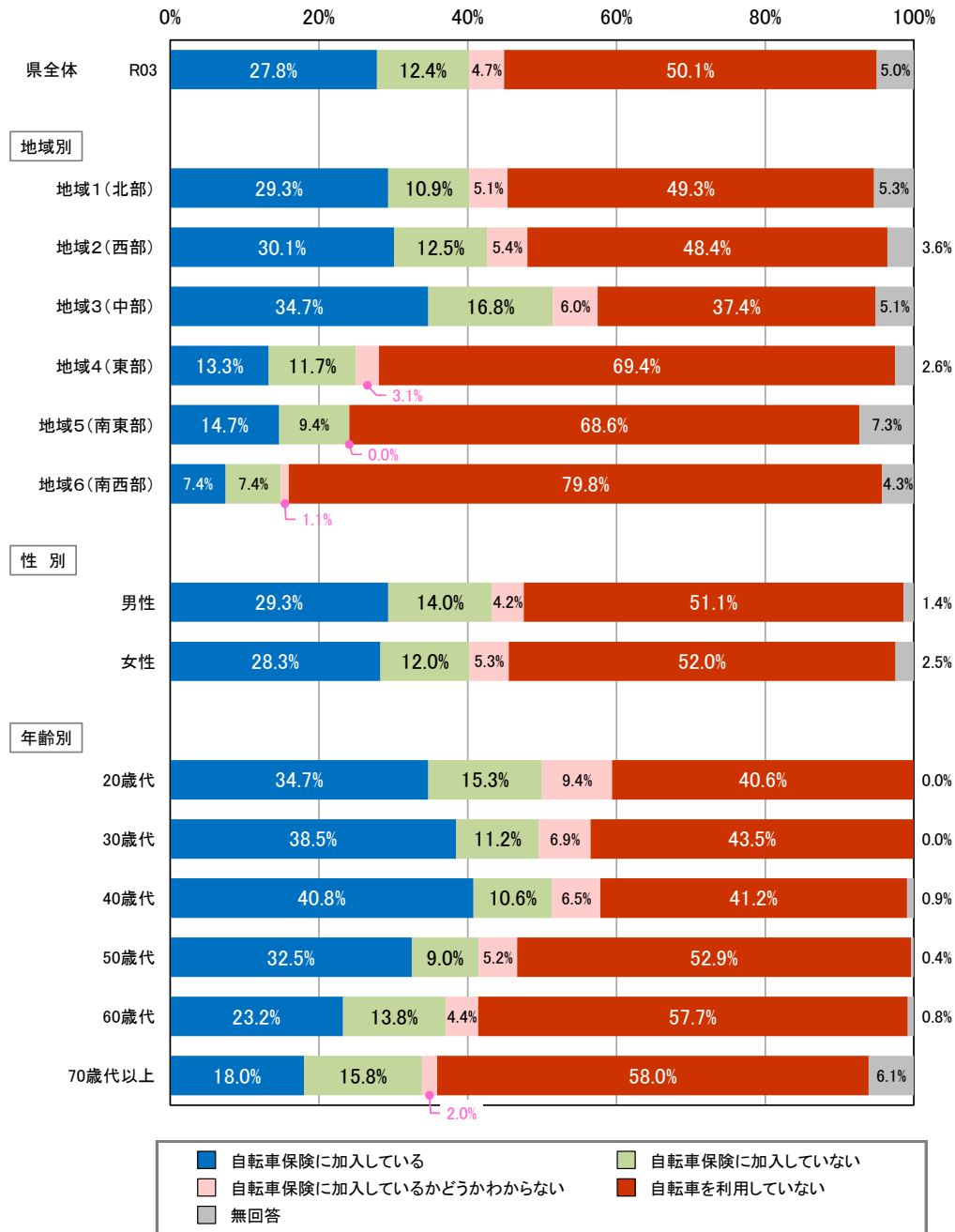
(2) 運動実施者の運動の種類 (問 32 県全体についての上位5項目を掲載)

- 運動実施者の運動の種類について尋ねたところ、「ウォーキング」(64.4%)が最も多く、次いで「体操」(22.9%)、「トレーニング」(16.8%)、「球技」(12.4%)、「ランニング」(8.1%)となっています。
- 「ウォーキング」と答えた人については、性別では『女性』が多く、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「体操」と答えた人については、性別では『女性』が多く、年齢別では年齢層が上がるほど多くなっています。
- 「トレーニング」と答えた人については、性別では『男性』が多く、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「球技」「ランニング」と答えた人については、性別では『男性』、年齢別では年齢層が下がるほど多くなっています。



(3) 自転車保険の加入状況 (問37)

- 自転車保険に加入している人は 27.8%で、加入していない人は 12.4%となっています。「自転車を利用していない」が約半数 (50.1%) みられます。
- 自転車保険の加入率を地域別にみると、『地域3(中部)』(34.7%)が最も多く、『地域2(西部)』(30.1%)、『地域1(北部)』(29.3%)が3割前後で続いています。他の地域では「自転車を利用していない」の割合が高くなっています。
- 自転車保険の加入率を性別にみると、『男性』で 29.3%、『女性』で 28.3%と、『男性』の方がわずかに高くなっています。
- 自転車保険の加入率を年齢別にみると、『40歳代』(40.8%)が最も多く、続いて『30歳代』(38.5%)、『20歳代』(34.7%)となっています。『60歳代』『70歳代以上』は、6割弱が「自転車を利用していない」としています。

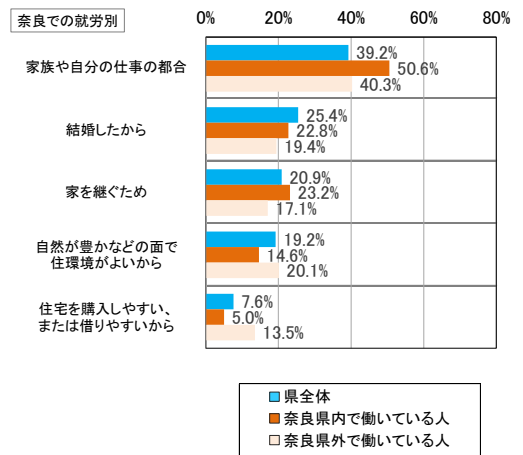
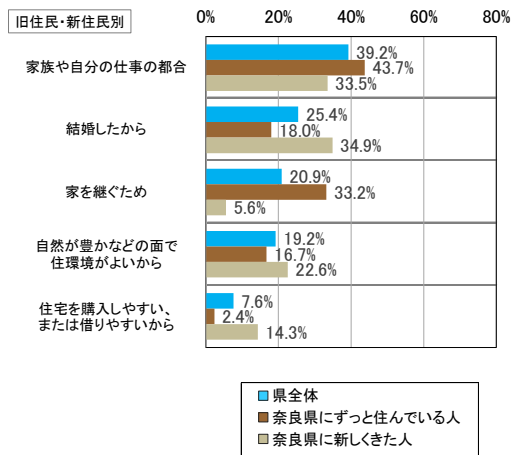
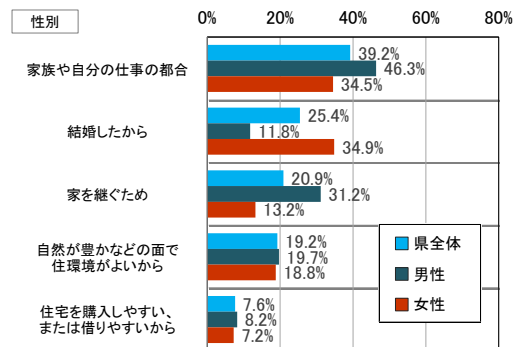
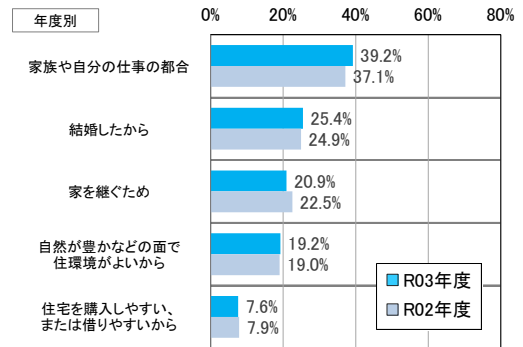
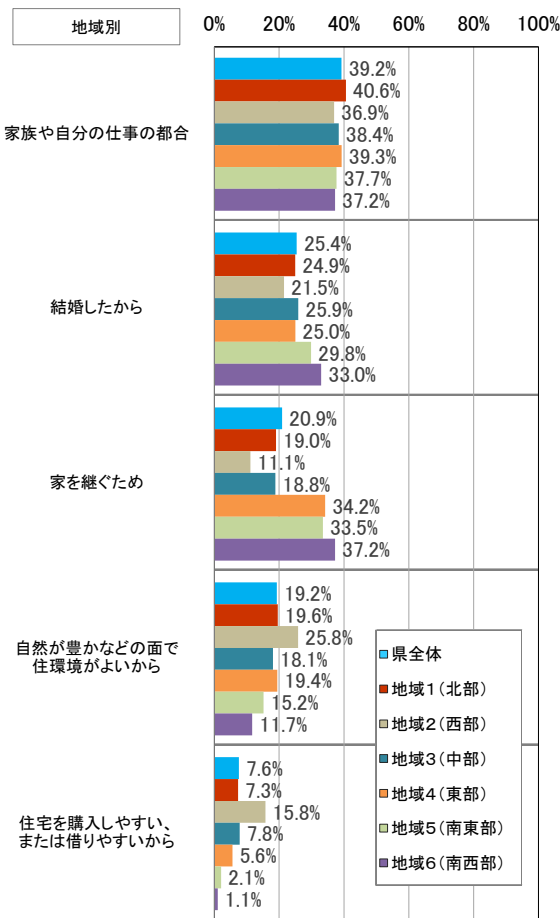


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

8. 回答者に関すること

(1) 奈良での居住理由 (問 44 2つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 奈良での居住理由について尋ねたところ、「家族や自分の仕事の都合」(39.2%)が最も多く、次いで「結婚したから」(25.4%)、「家を継ぐため」(20.9%)、「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」(19.2%)、「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」(7.6%)となっています。
- 令和2年度と比較すると、「家族や自分の仕事の都合」が2.1ポイント増加、「家を継ぐため」が1.6ポイント減少しています。
- 「家族や自分の仕事の都合」と答えた人は、地域別では『地域1(北部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「結婚したから」と答えた人は、地域別では『地域6(南西部)』が最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家を継ぐため」と答えた人は、地域別では『地域6(南西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」、「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」と答えた人は、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



令和3年度
県民アンケート調査
報告書
<概要版>

令和3年12月

奈良県総務部知事公室統計分析課
〒630-8501 奈良市登大路町30番地
電話 0742-27-8473
